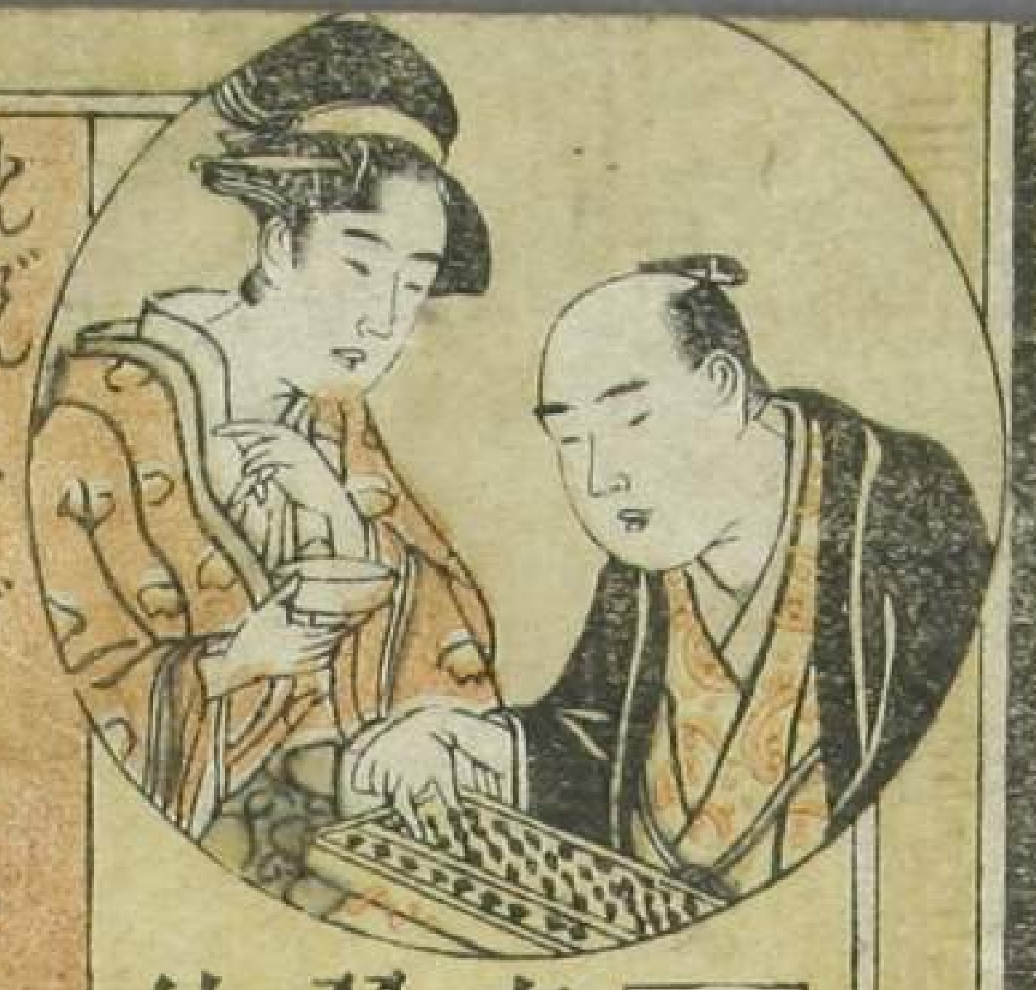


京傳戯作
享和癸亥發行
翠橋上通油街
仙鶴堂梓行

人間一代悟衢迷所獨案内　上

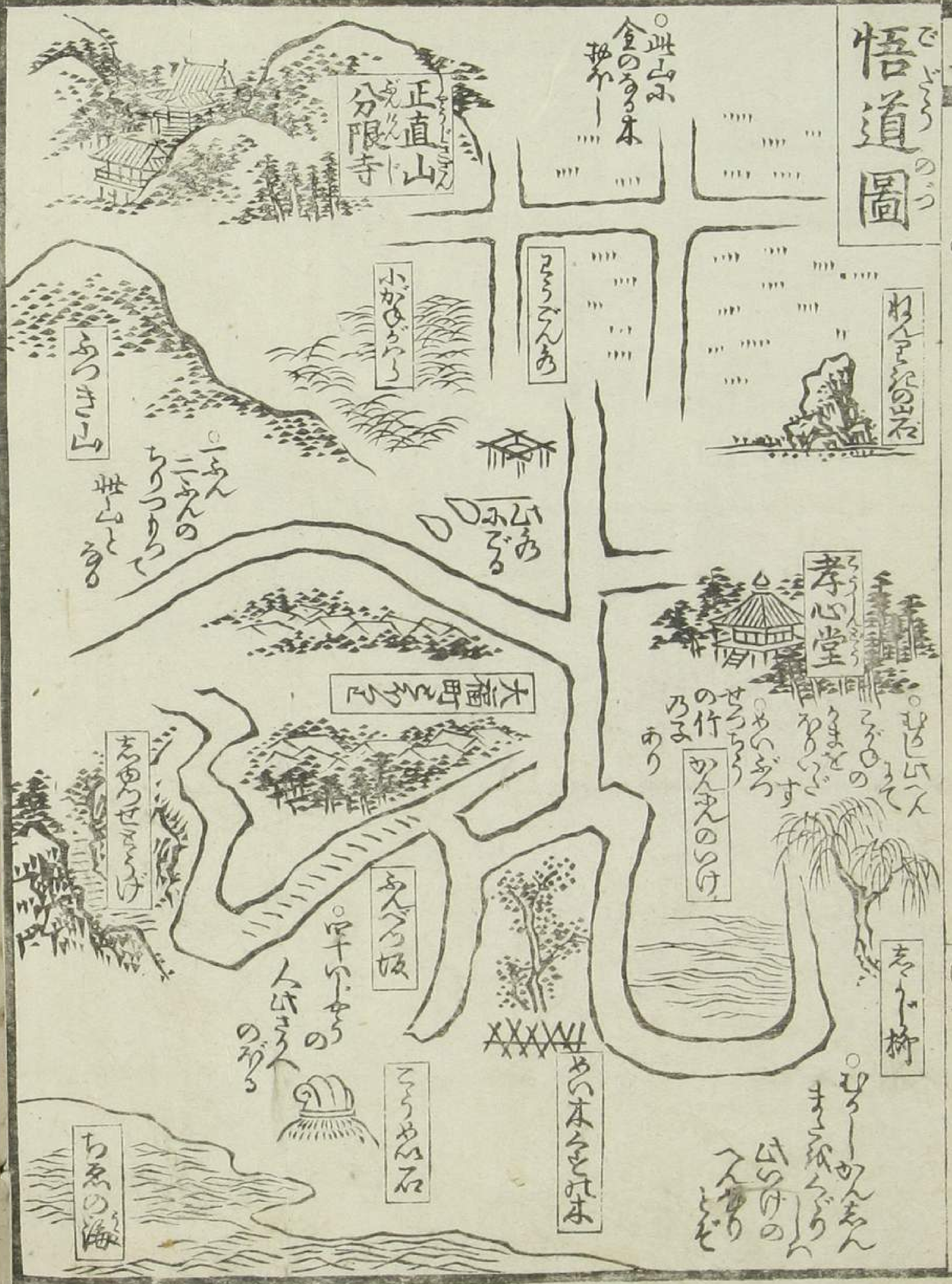
へ13
2946
65

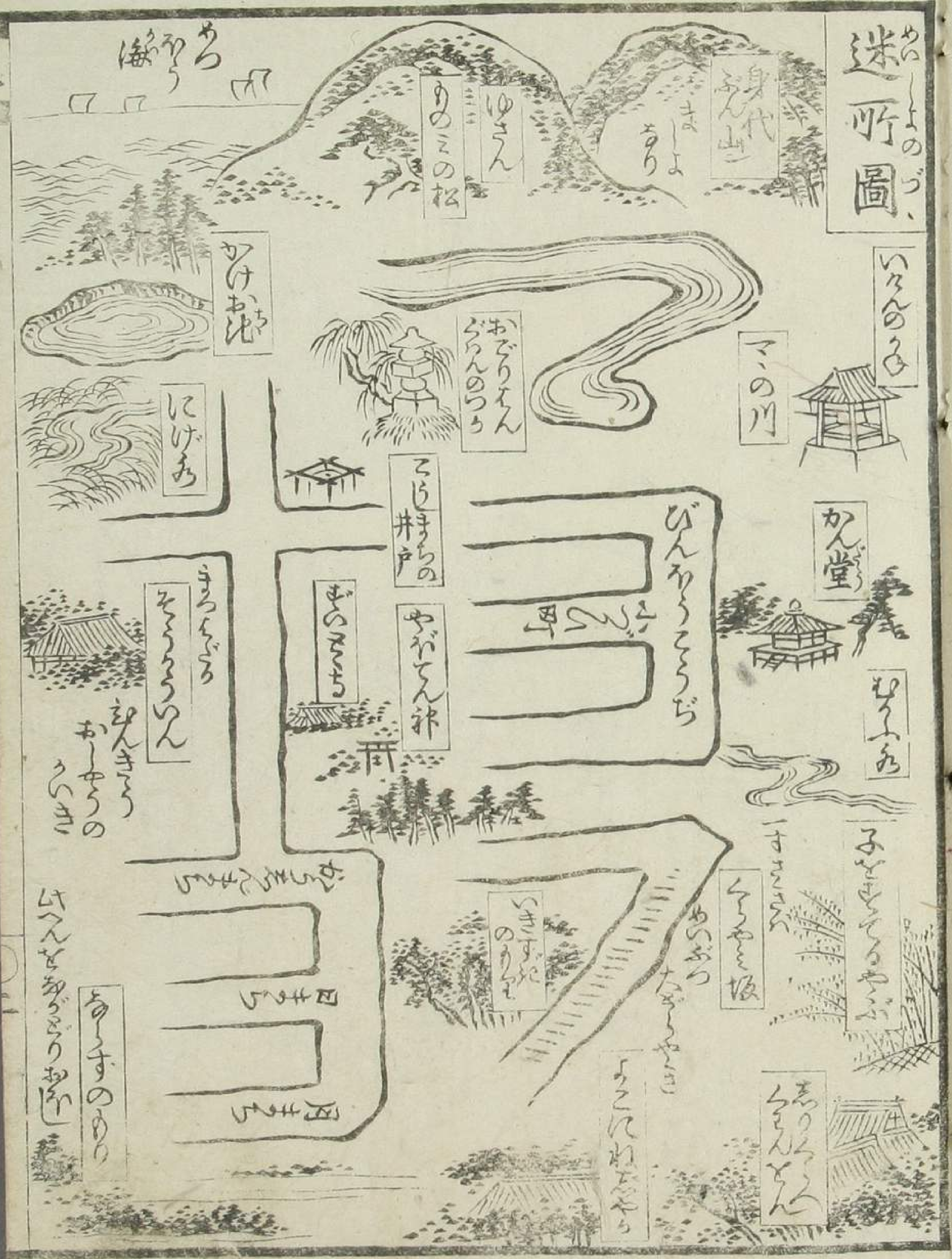
65
特 へ13 2946 65

此草紙ハ人間一生の道中母の胎内くゞり出て父乃恩の高き山にのぼり母の恩乃ふかき海をわたりてより隠居山安楽寺へいたるまで其あいだあそびに脇道横道悟り迷所宿々泊々川々舟わたしの旅人のためにことごとく志るす其外まよひ易き道をも用心すべき所々を絵図にあらはしてしらしむ抑人間四十里行てはじめて老の山にいたる家よりいたりて思案橋にて分別坂をこゆるまではるかなる遠路と此道をえる岐にあり道づれはしくせんじんの不案内なれば横道にふみまよひ脇道に入ば一生波風たえず至要安楽乃本海道ありながら心がら悪所にはまりむだ骨をおりむだ事にくるしむべきもの多し千里乃旅も古郷にかへる日あり人間一生乃旅もしまゆく弱足なれどやうやく一里でもあゆむ人あるくとあれど一日もはやく隠居山安楽寺の門をいそがく百里ほど長寿海道をあるくと行かたのしむべき事なり

享和三年癸亥
孟春發行

山東庵京傳誌

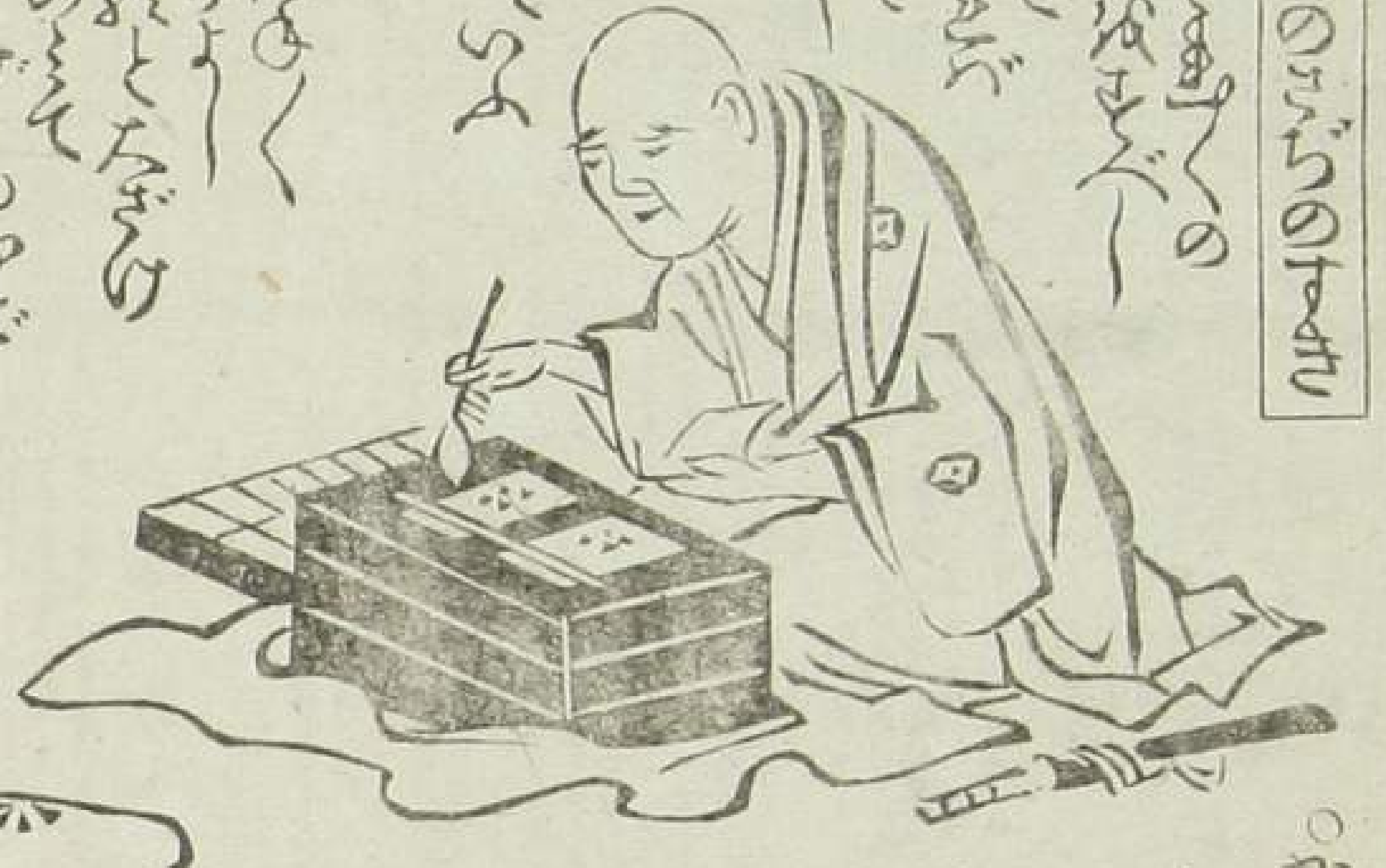

悟道圖
○此山に金のなる木たくさん
正直山分限寺
ねんぶつの岩
こうでんあ
小かねもちの
ふつき山
○一ぶん二ぶんのちりつもりて此山となる
山あふぐる
孝心堂
○むかし此へんにてろうぼのうまをかりざす
○やいぶろせうちうの竹のほるあり
かんにんのいけ
大福町ちやうじや
きんべんせうけ
あんべい坂
○百千いうちうの人此さうへのぼる
こうやん石
やい本なえれ木
ちゑの海
きやうじ柳
○むかしかんきんまことくらうにして此のけのへんよりとぞ


迷所圖
身代ぶん山
まよあり
ゆさん
めのこの松
あぐりの海
かけおち池
いろかの谷
ま々の川
おごりざんぶらんのうち
にげあし
てらしまちの井戸
びんぼうこうぢ
かん堂
むさふ
まつちゞろ
そうろうゐん
しんきろうおしやうのうき
ぼのさち
やおてん神
かうしんみやう
四ちやう
四ちやう
此へんをあるきまわり
ふくすのめし
いきすぎのありさま
一すさきあん
そうやく坂
めいぶろ
ふざまとてるやぶ
ようこれねたやら
きのくらくらんどん

人間（にんげん）禍福（くわふく）逢見（あふみ）八景（はつけい）

いしやさまのさぢのすき

○うぎやうハそまつくの
きらくしてもよさそべし
すハさしてで　なけれバ
ちぶくせとして　うらし
こまいしや　さまの
の
さぢの
すきといふ

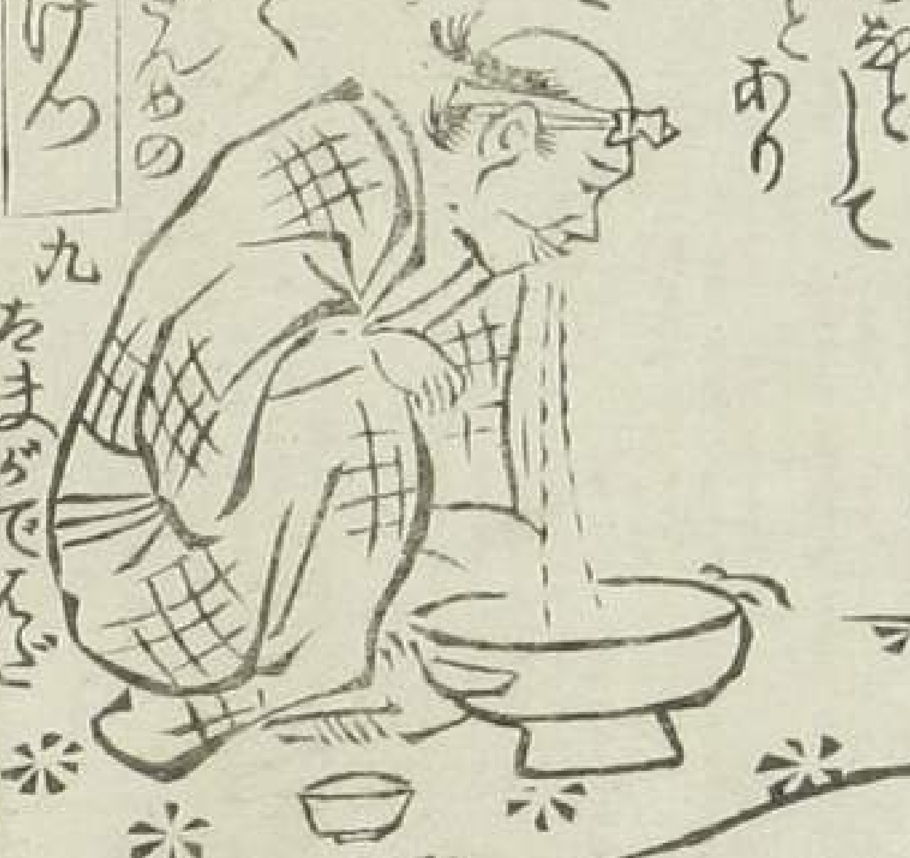


ひまのさけり

○ちく人ハほまく
いそがしさがよし
ひまでめしとなまけ
ちくをのみて
つひにさけげんくわなどして
いのちをうしなふことあり
これらをなづけて
ひまのさけりと
こそつけるなり

「さけのさかなハ
ゑびざんせうふの
まのあたりつどふつく
佐ゝてんくとかハ　せぶんかの

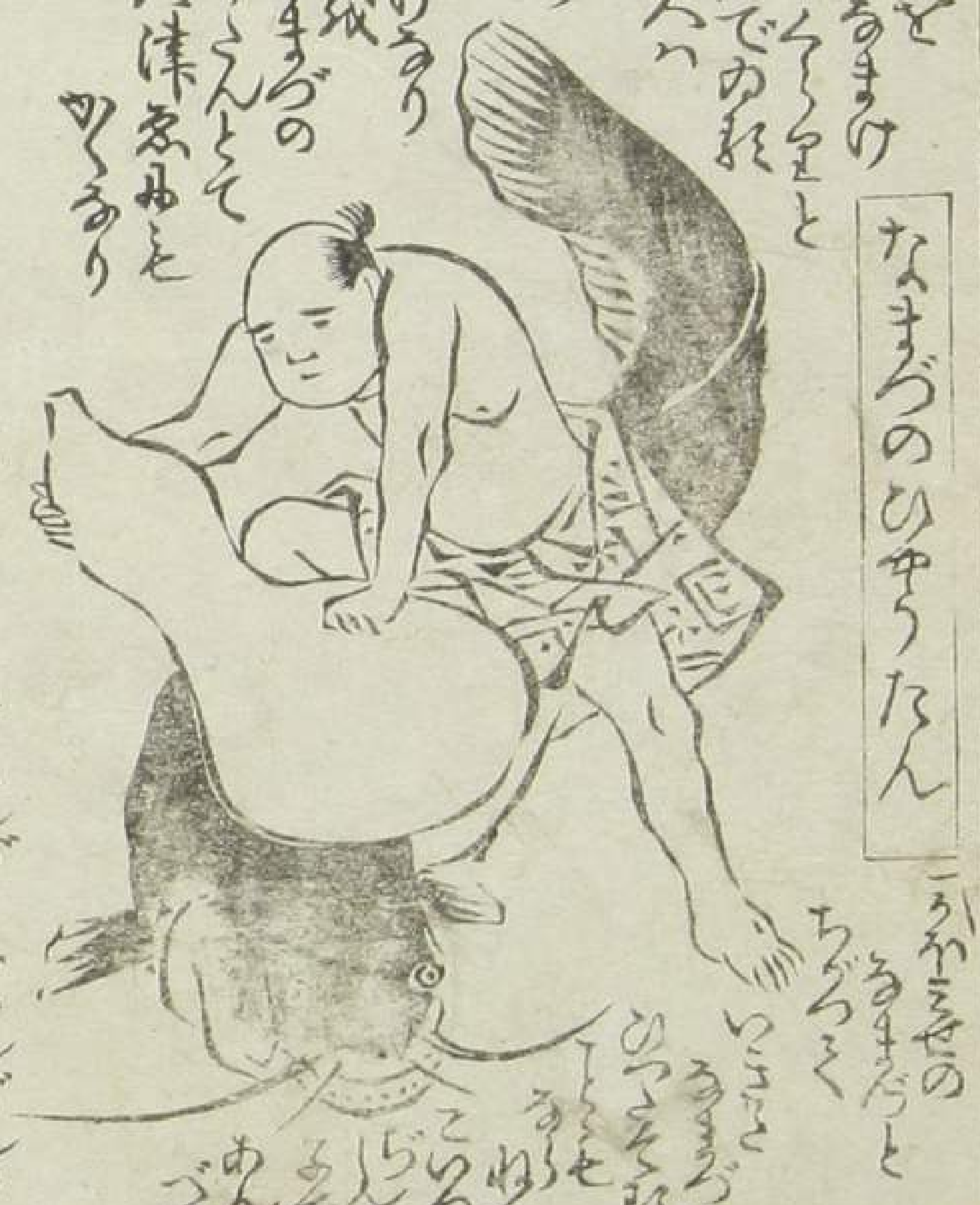
九
たまがでゝるぞ



なまづのひやうたん

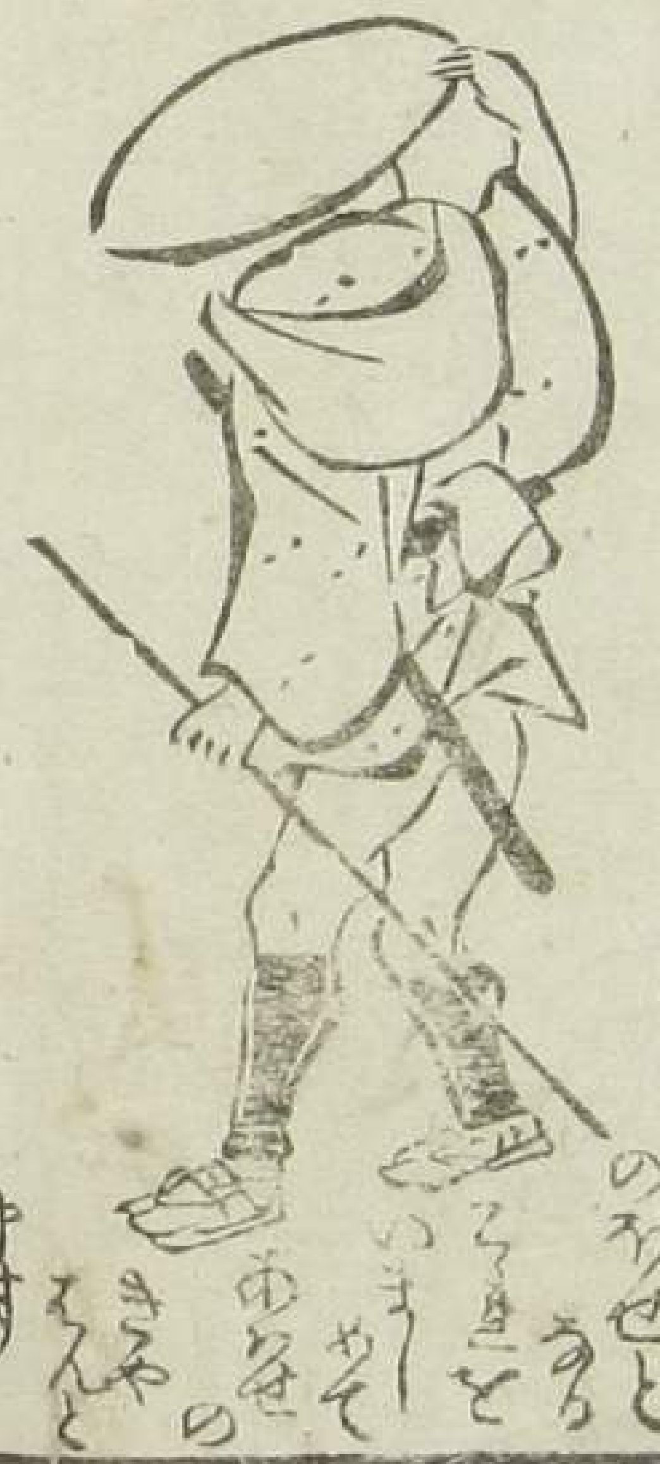
○かぎやうを
あまりけ
ぬらくらくらと
あそんでのらつ
人ハ
つまり
ぞうろも
なさけ
なうけあり
ころも紙
なまづの
ひやうたんとて
大津絵を
かくなり

こらいへせの
あまだうと
ちがふく
いさゝと
あまづの
ひやうそれ
しらせ
ねい
ころらんの
子を
あんご



袷（あはせ）乃きやはん

○やうきう人ハ土んがうがかんぶんなり
ゑんがうらうらうらいと
ちうちうとそぶりさむ
さうがなりでつけ
のがせとうる
こゝ旦を
いまして
あ爰の
きやはんと
かすなり



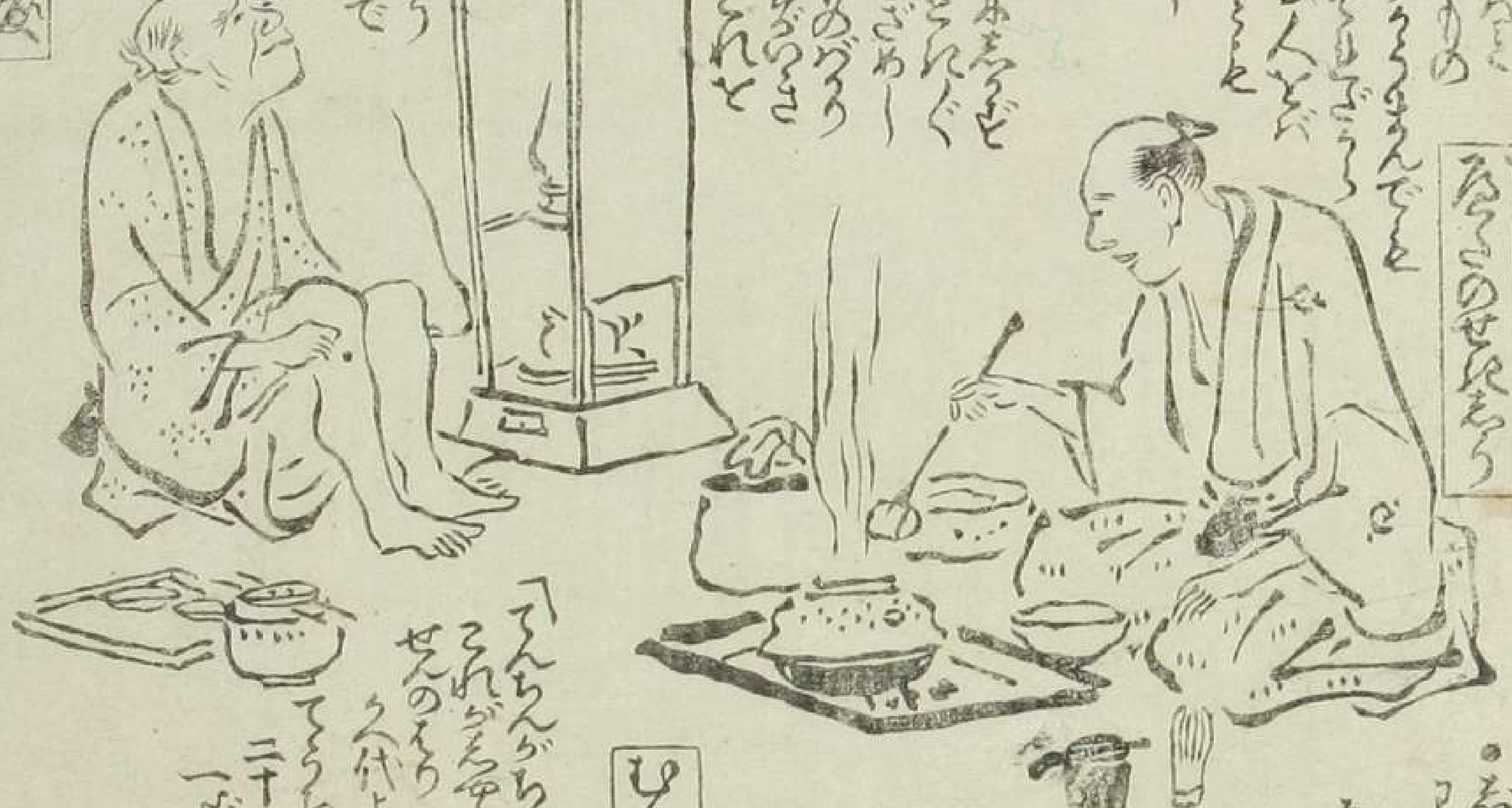
ゐなかのせんちやう

○うぶてらしきから
げのへへらまがりの
なかまれどうらうちかんでも
いろうとおもひてぶらう
ころがらまんなる人ども
なさの花見ほど
いふべし

○人ハやうちやうにあらずとも
あついさむさにもそれぐ
あさとも気むさぜわし
ちくのまづくさりのから
くらうみもかのかさ
うちびやうこれと
わるの
だくえんと
いふ

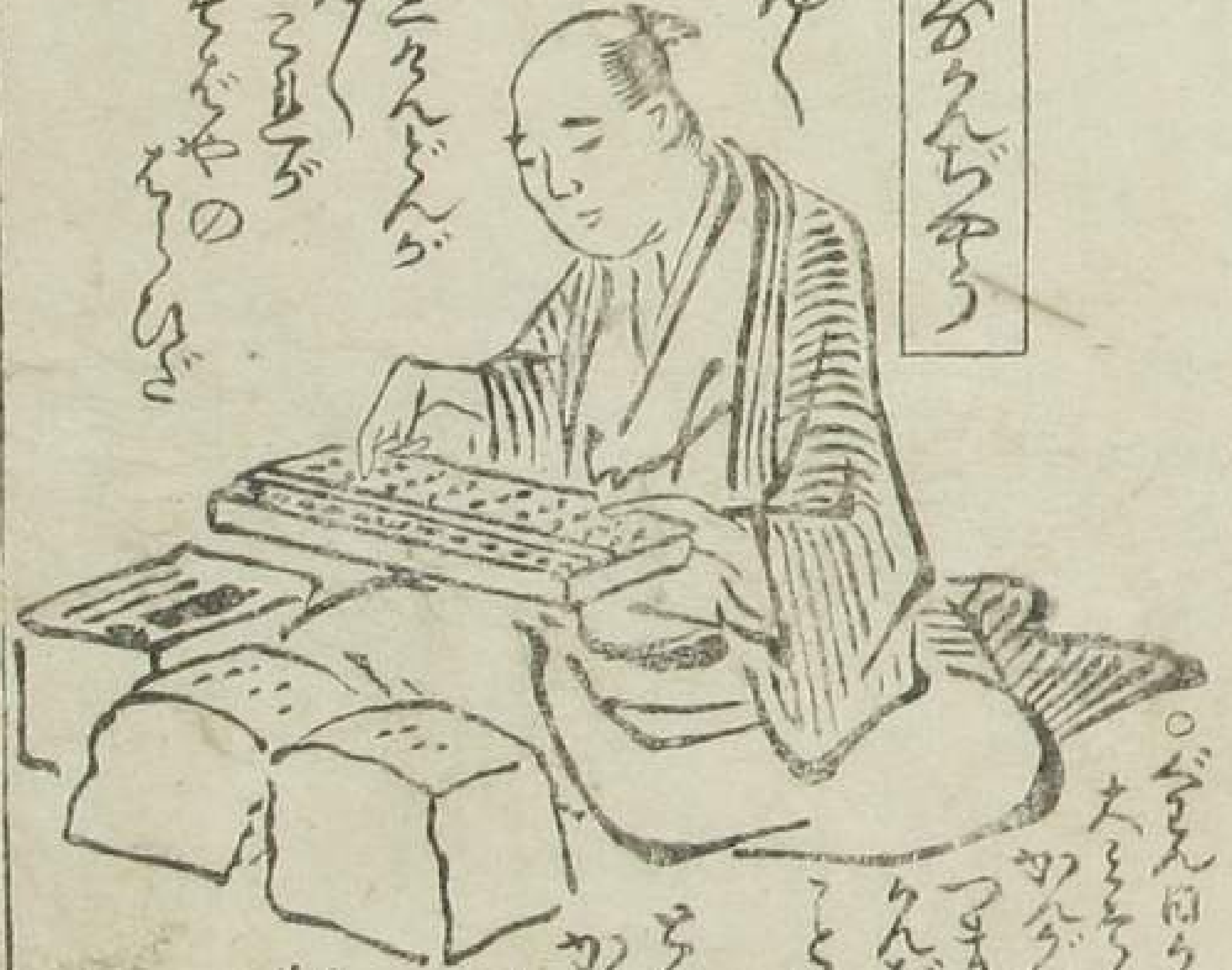
アゆうく
こうつけさ
「あらねをくうう
あついのかんで
わるふしぎう
福ぶらくの
どうことのふさ
士用のうちろう
ふとうの
せきうざ

あくの麦飯（むぎめし）



むりかんぢやう

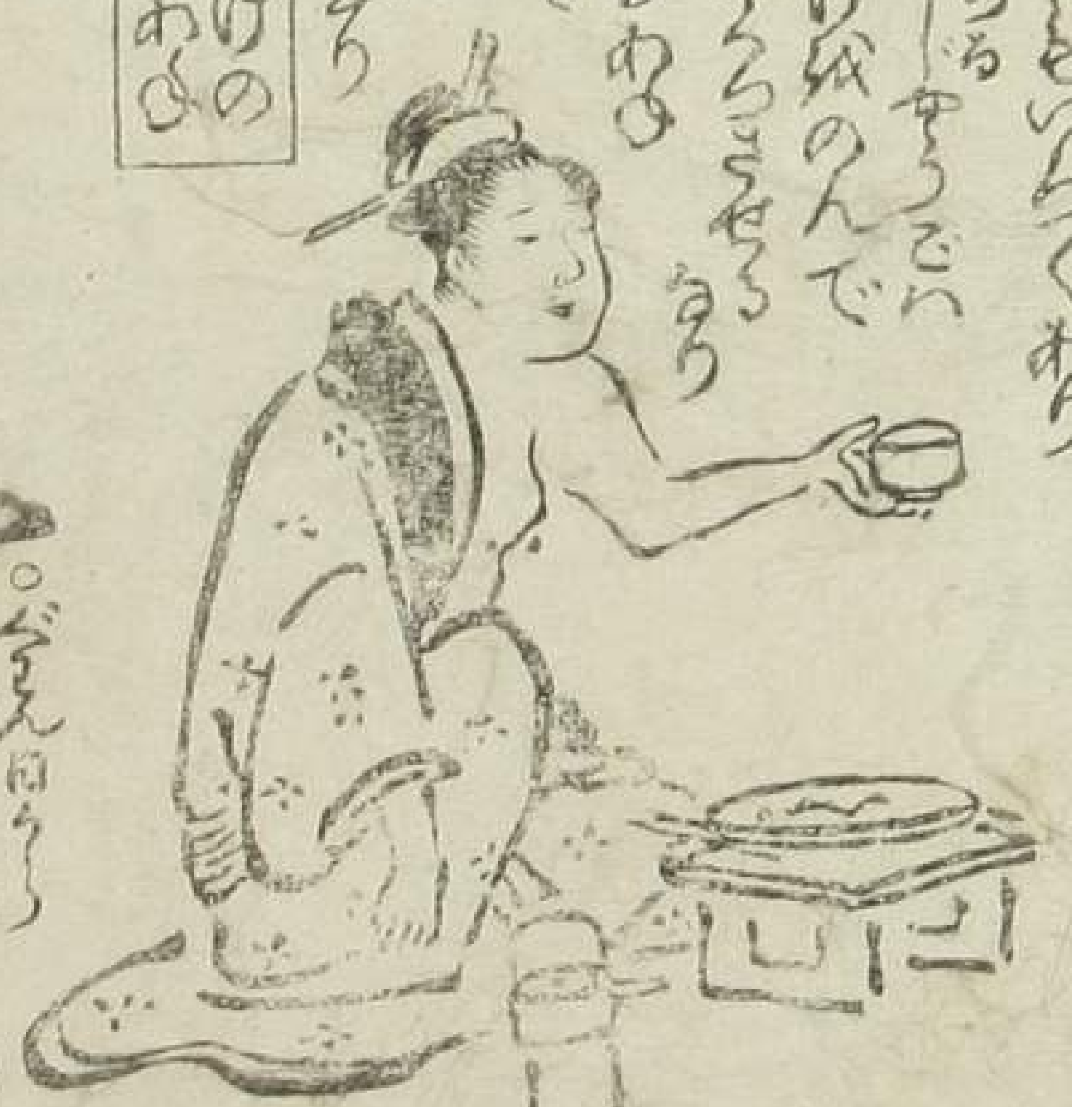
「てんちんがちんく
これが大事
せのなる
久代よ
てうちう
二十のこゝろんどんが
つどんく
こまづ
そばやの
ちよこ



○ぐちん目らう
大きなるのちなき
勘定ハてつてつく
つまらくまとれど
かんぢやうのあわね
ことにたな
わかしの
きれあまりて
かいそれいうい
とうでぶらくと
そらばんの
せいふさるい
むりな
かんぢやうで
あるまいか

なかづけのよめのあさ

○ぶやうぐみとハらくあり
うろくねだる
しやうでハ
あくさけ紙のんで
人とさわるさせる
此やうかわき
とりてさ
よめハ
大きん
ぎさう

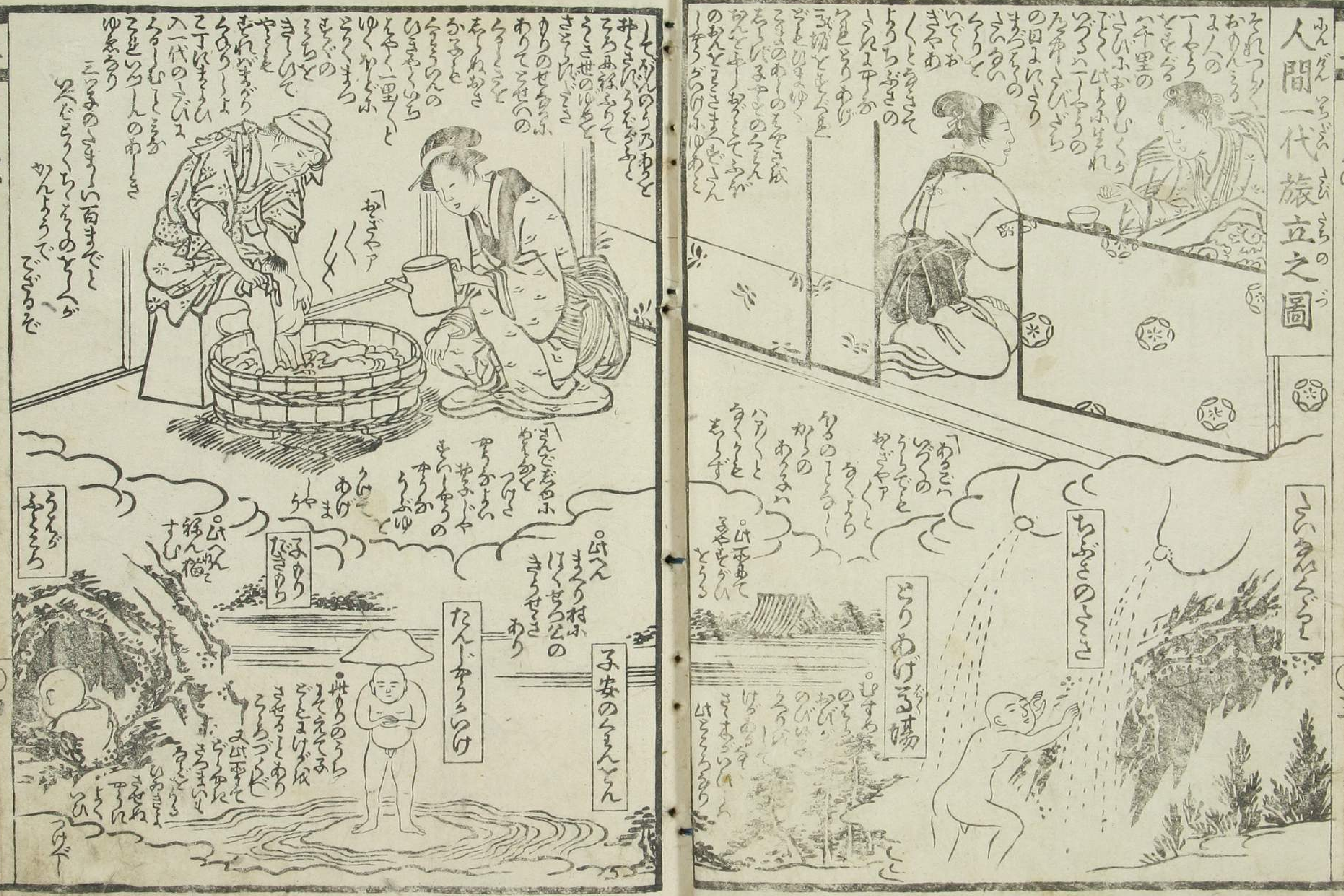


人間（にんげん）一代（いちだい）旅立（たびだち）之圖（のづ）

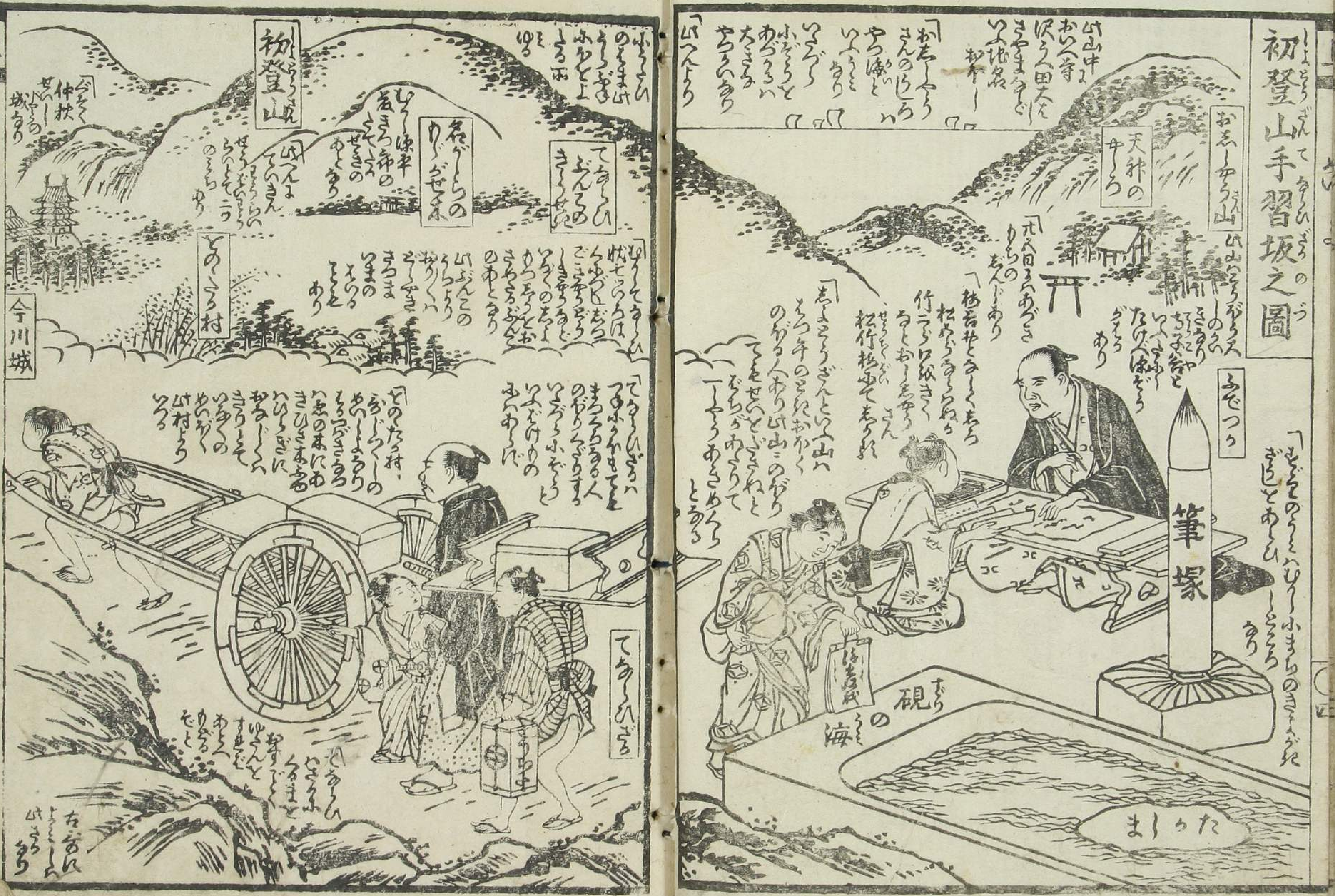
それつら〳〵おもんみるに人の一しやうをさぐるに八千里のながみちにおもむくごとく此よふに生れいづるハ一しやうのたびだちなれバたびだちの日よりまづそこのさんの[illegible]ハくらうをいでゝおぎやア〳〵となきてようちぶさのされよりか道をとりわけ所〻の名所を見てどこへゆくこのまのわかれのちにさんはあらたに子やすのくわんおんとてさすがにさんがのおんをうまれてきたしまうのけふゆわく

しもがんのうちのわきをみとさいろうたうてころの様ふりてうきせ世のゆたかをさきられざさきありのせちがふわりてこせへのくるしみをあられおさかみをくるうりんのひきやくいちえやく一里〳〵とゆくやどふとうくまつもとぐのところをきうひてやどをとむれバまがりくわり〳〵よこうれまでうひ人一代のたびにくるしむてことかくれいろんのわーきゆゑなり

三つ子のたましい百までといへどもちくさのそく〳〵がかんようでござるぞ


「おぎやア〳〵〳〵
「まんでおやふやぎやあをつけさすうかよい茶おどやまいあきのすうからぶゆとはゆめけまや
此へんまくら村にけくせう公のきうせきあり
子安のくわんをん
たんじやうのいけ
ふなりなぎさ
此へん猫すむ
うぶごゑところ
○此あたりのうちまでえて子どもまけがなさせることあり又此所ではやりさろまいをさとうひおきまさかれよくひつけべし
「わるいやつのうちでをおぎやア〳〵とおくよりながのとうる〳〵かわのおもかハハア〳〵とうく〳〵をもらず
○此所にて子やすがむとうる
ちぶさのたき
とりあげる場
とゐきんくぐり
○むすめのちぶさのびのびかくれけがあるそさきのゆよ此ところあり

初登山手習坂之圖



おさしやう山
天神のやしろ
ふでつか
筆塚
硯の海
たうしま
てならひぶんこのきうせき
名がらのめぐぜ木
初登山
そのくろ村
今川城
てならひざか

此山中に おいへ寺 沢の入田大に さやまかもど いふ地名 おほし

「おしやうさんのいろは やら海と いふところあり いろは ふぞうを あらうには ちさまを やうのあり

「山つんより

此山にちやうがうえ しのゝの きうり ちかてや ちらす紙を いつへやらし なけ入らぞう ぐそう あり

「六入日三へあづさ かちの 名んどあり

「梅若やとなしくあら 松のやうちらね 竹ニうけ紙さく ちとおしまちう さん 松竹梅にて あられ

「しよとうざんといふ山へ そろ年のとしおかく のぼる人あり此山こののぼり てをせへとぶされと ぞちがわくりて 一しやうあそめぐ とある

「もどてのうへにはむかしふみちかのきまゝがれ ざうしとあひ しるしろあり

ふうそひ のそま山 うつぶき ふみとよ よろ雨 ゆる

むかし源平 名きつ帝の ならせ せきのあとあり

「山つんより てんきん せうだいへ らいとそ三 のえらめ あり

「むかし仲秋 せいしやうの 城あり

「むかしてならひ 始むろのは くさぞしおい ごこのろう しまちうと いろくの志て からちうとお さわろうぶんを のあとあり

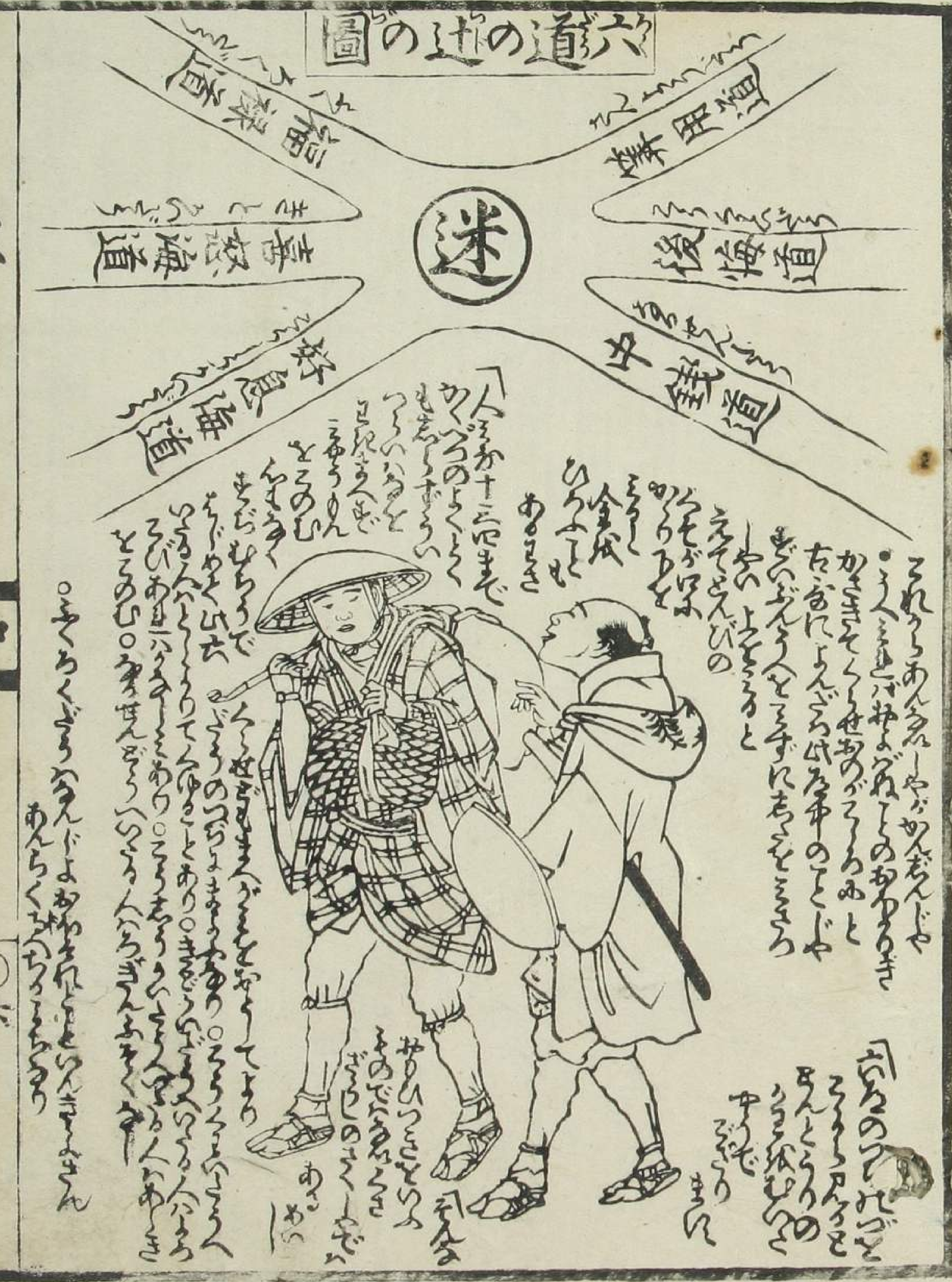
山ぶんこの くちよりに おりくいに ならぶきさ さうま いまの そのと ころを あり

「てならひざかへ つまふみもてる まうちうる人 のおりくぞうする いろうらふぞうと いよいけめの あかわれ

「そのたち村、ぶらくしの めしよろり もうづさうう いちの末にわ きひさ末ある いうぎに おるしくへ きうりうそ いろくの めいぶく 此村より いづる

「てならひ いさくふ るまと おうすでく ゆうんと すもぞ わとく めんぐる るど

右がは よこくみ 此さら あり



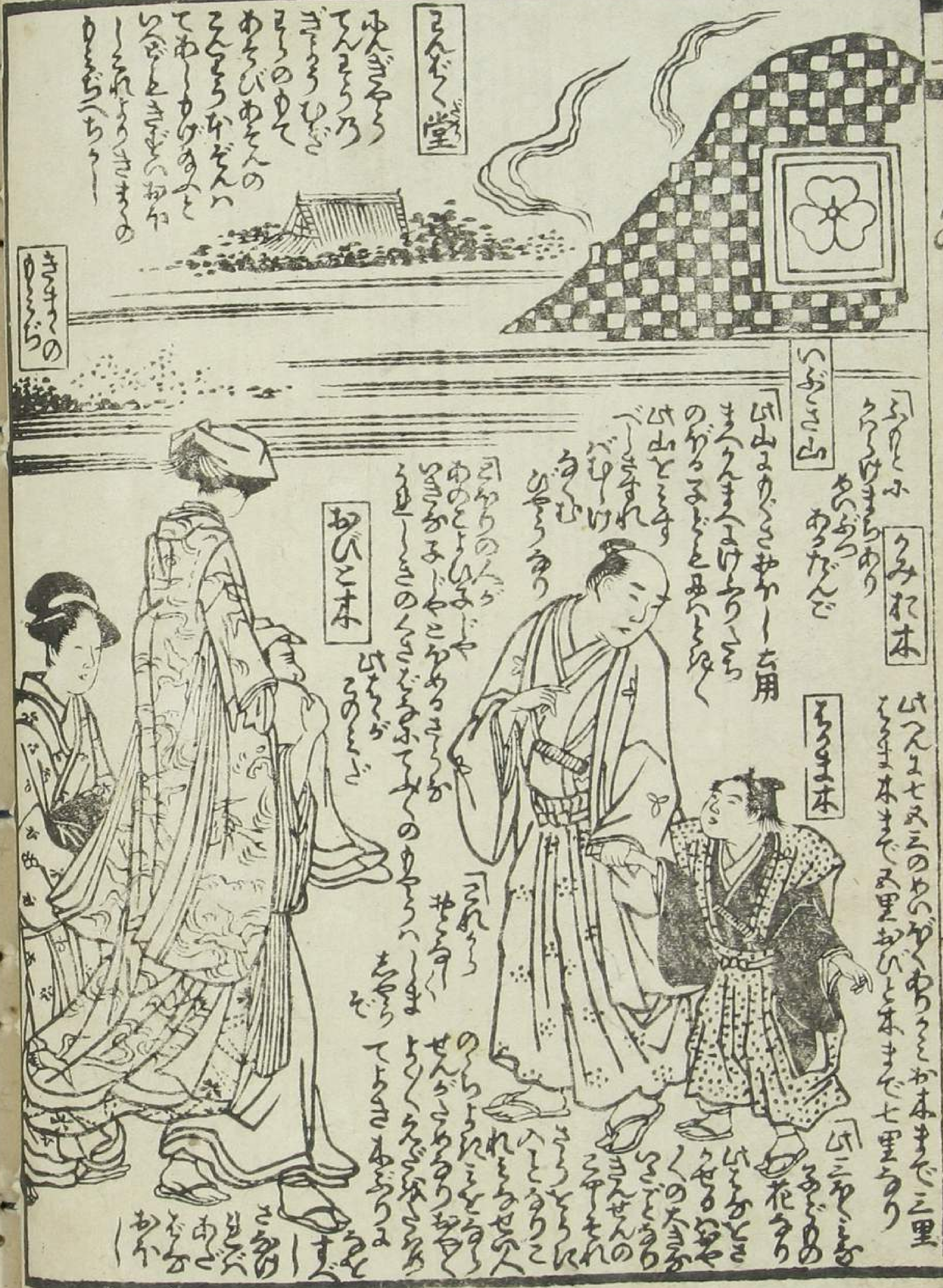
これからあんなんしやかおんぢんじや
●うへ道ハ神よりおくでのおかのぎ
かさきそくく世おのかうろのぬと
たかれよんごろ代る市のことじや
まつハぶんうへをうずれちさをきさら
一宗ハよくきるると
ゑそさんびの
ぐそが[illegible]
かくりうを
こうし
金成
ひろふても
あるまき

「人ハわか十三四まで
かくごうのよくしらく
もなくしずるうい
つうハいるを
さ[illegible]え[illegible]で
二十あうりん
とるのむ
ゑむもうく
まどらむちうで
ちかくへとい[illegible]

くらせなまへかかとまらてより
づからのつらよまうあ○こうくうよいくうろん
いろんへとしりてくのきとおり○きまうやうよこうのへつうこ
ろびあは六かくそうわり○こうもうくらまくんろうんハあき
とるのむ○やまんがうへへかくろうんろうぎんふそく
○そうくらうへえんだよあかきれとどちりんさきゑさん
あんらくどくちうらう

やりひつきとるの
あので[illegible]
ざうしのさく[illegible]
あさめハ
[illegible]

「六道のつじれづを
こゝまで見んとを
さんとくらの
おはな[illegible]ひろさ
中ので
ござり
まれ


ごんぞく堂
きまくのゆうぢ
いぶくさ山
くみれ本
おひこ本
ちうま本

ふんぎやう
てんうろ
ぎやうひざ
さうのうて
あそびあそんの
ふころうかぞんへ
てわしかけあみと
いんどときぎへお[illegible]
しられうくさまくの
ほうぢへちう

「ふりしふ
くらけまちあり
そんかう
あるだんで

「此山よりぐさおやし古用
まへうまへよけうりうち
のかるるどとみへるるろく
べしきうずれ
此山とよろす
ばむしけ
ろくむ
ひやうあり

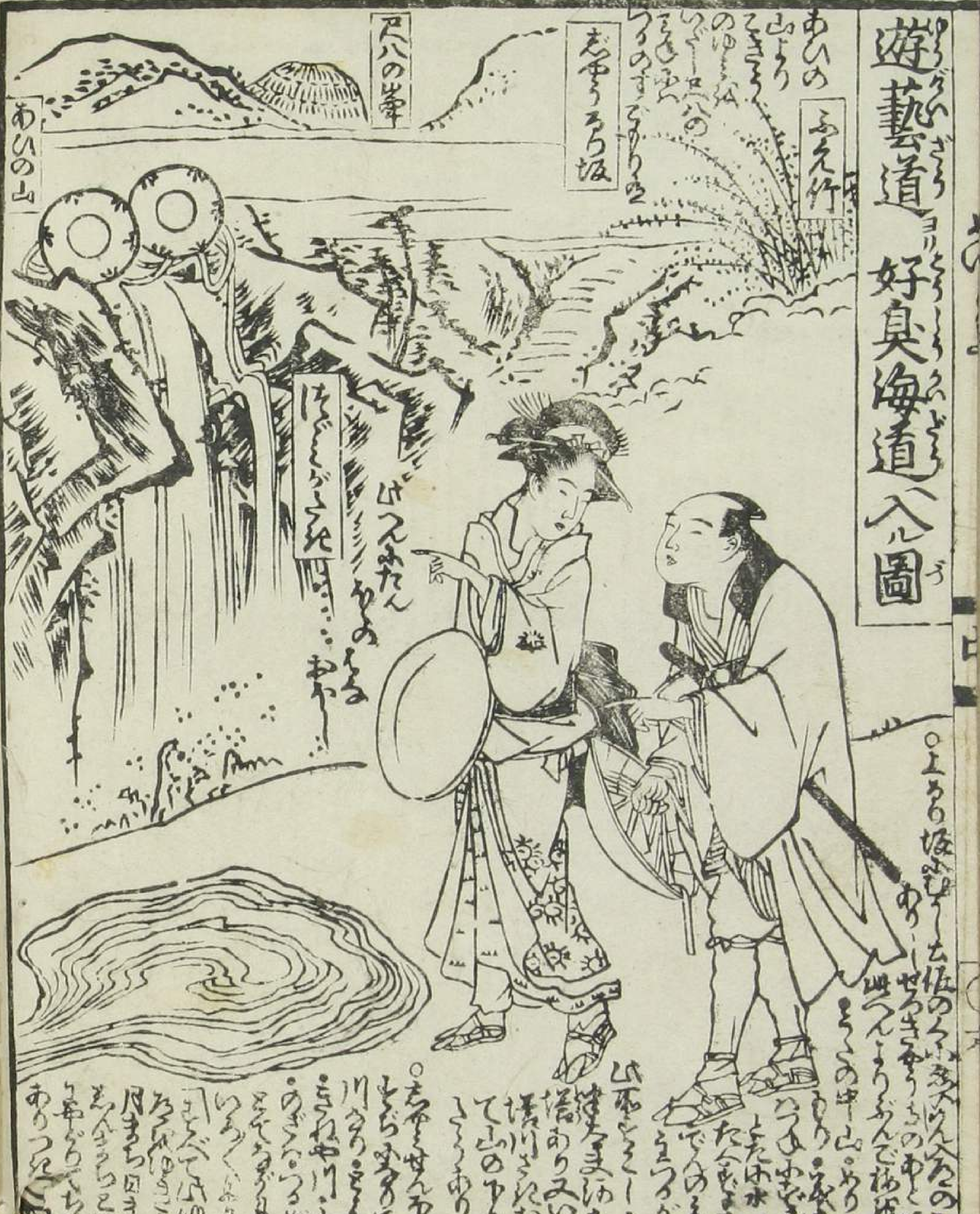
「こうりのんが
めのとよひまじや
いきおこじやこかめうきうか
うましきのくさぞうふてみくの
ひちかこのとぞ

此へんよ七文三のかのがくあちこかお本まで三里
こゝま本まで又里おひと本まで七里あり

「此三ぞくよ
ゑくのめ花あり
ひらかとさ
うそるやや
くさでとう
くの大きな
きんせんの
こ中しそれ
さうとうれ
へとうりこ
れもうせう人
のらよれこと
せんがさうあう
よくくえぶぶろ
[illegible]

「これから
やうすく
おうへしま
ちやう
ぞ
てよきあふうよ
ろをすぐ

遊藝道ヨリ好臭海道へ入ル圖


あひの山
尺八の峯
志やうろう坂
ふえ竹
はぢしらず滝

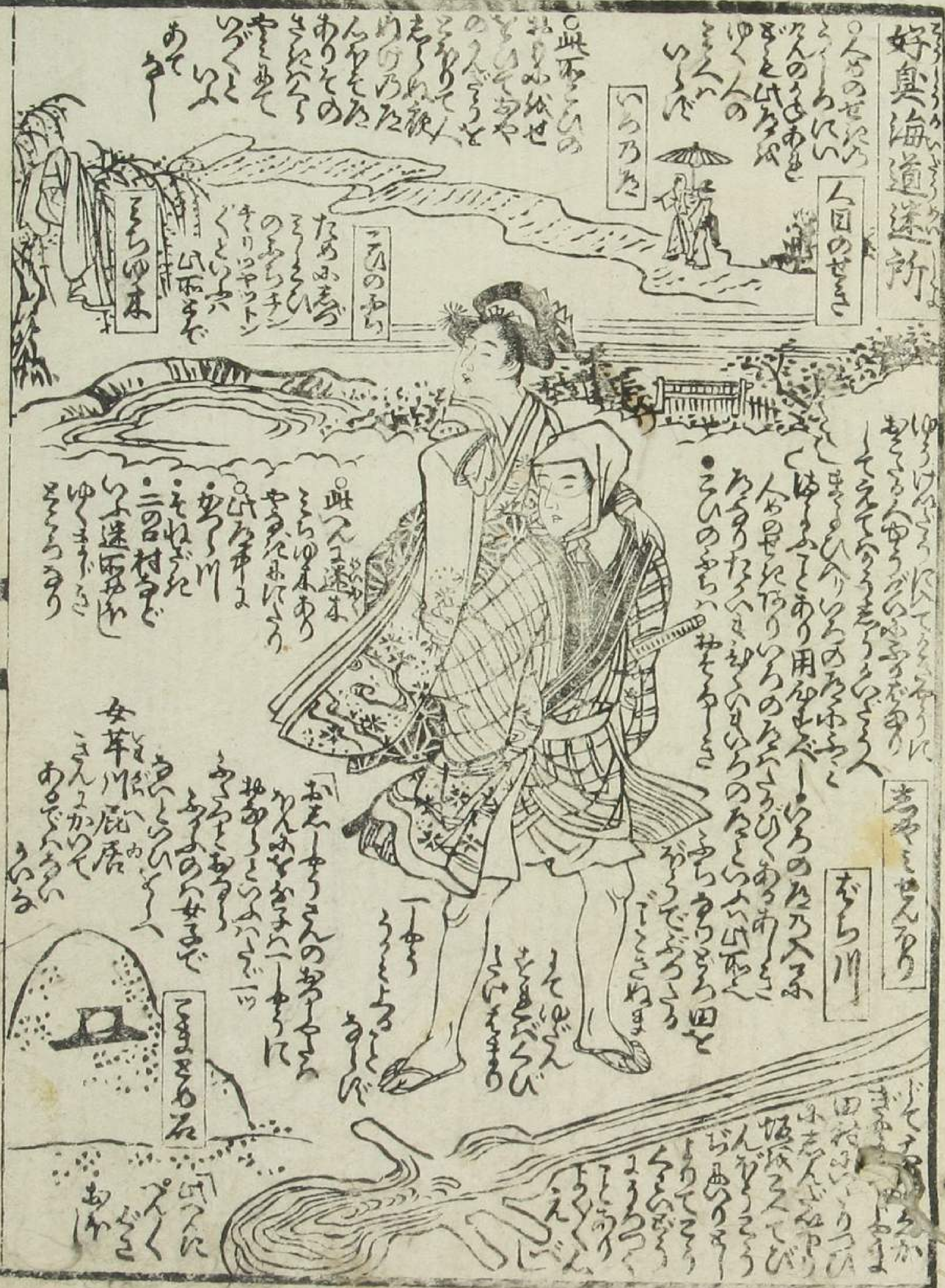
あひの山より [illegible]

ばつんかたんかのさるおや [illegible]

○上ろ坂よりむかふへ去佐のくるわ [illegible] ●それの中山 [illegible] ●それよりもこの水のびき [illegible]

○志やうせん寺の [illegible] 川 [illegible] ●のぞみ [illegible] ありつ [illegible]

好臭海道迷所


人目のせき
いろ乃た
こひの峠
もち柳本
志やうせんかり
むら川
てまえむ石

○人目のせきの [illegible] ゆくへの [illegible]

○此所 [illegible] ありて [illegible] いづく [illegible] あてなし

なめの [illegible] チリツヤツトン [illegible]

ゆうげいぶくろ [illegible] 用 [illegible] ●いろの [illegible] ●こひのかちへ [illegible]

○此つゞき迷ふ木あり [illegible] ●むら川 ●それより ●二の日村 [illegible] ゆくまゝに [illegible]

女夫川 [illegible] 居 [illegible]

「お志ゆうさんの [illegible] 一中 [illegible]

一中 [illegible]

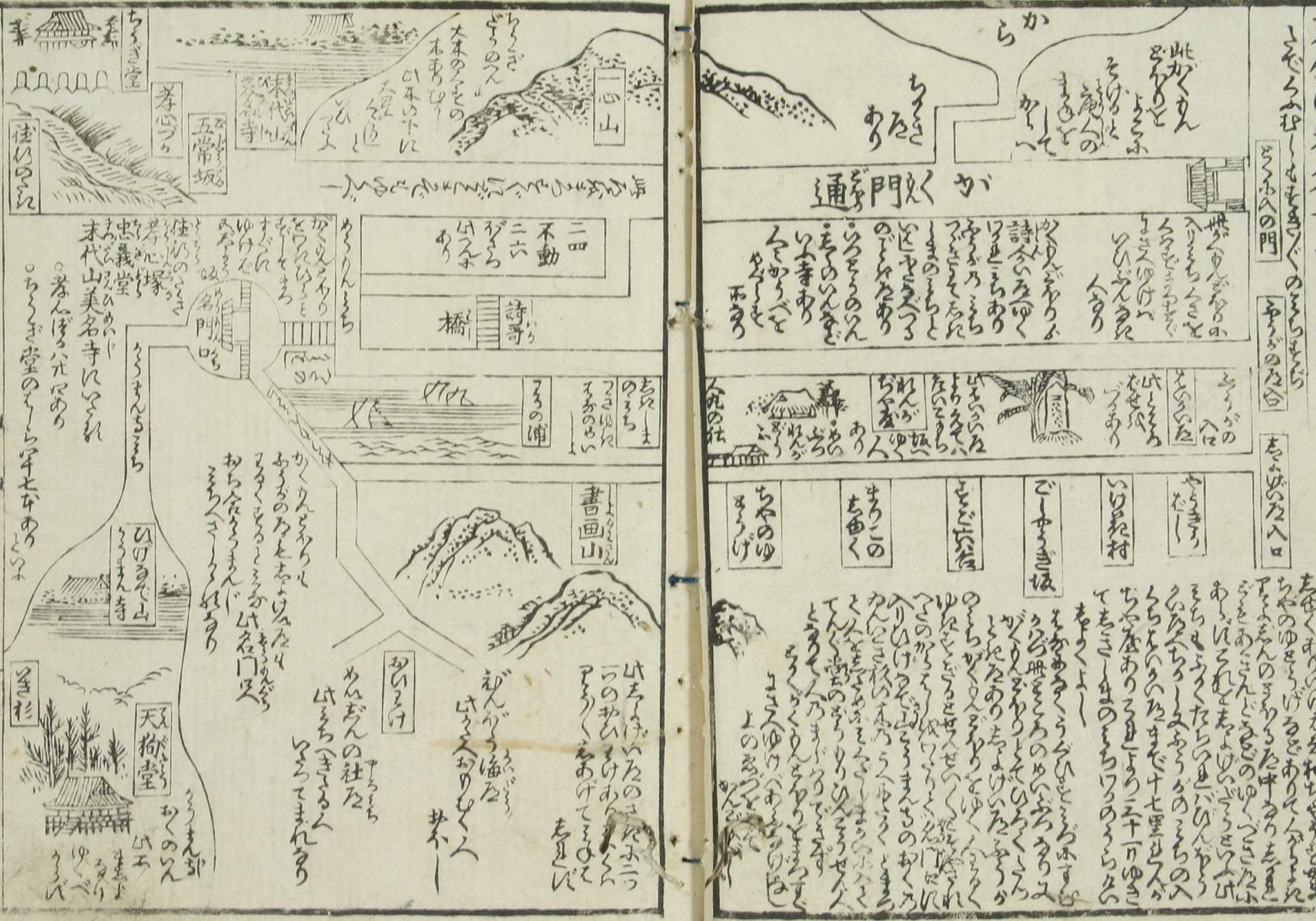
そて [illegible]

[illegible] ゑんじん

[illegible] ぐくさ [illegible]

末代山美名寺へみちびく圖

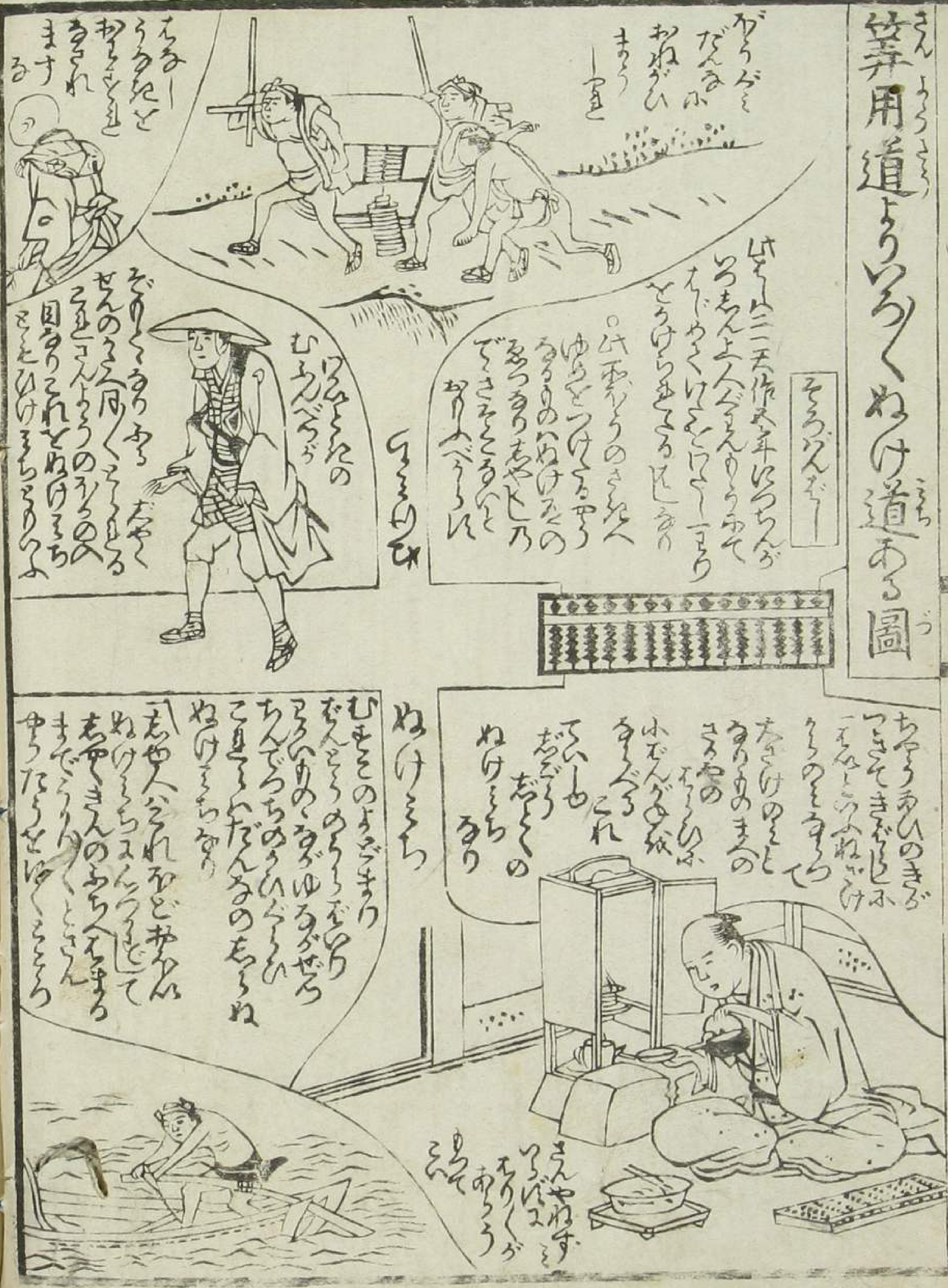
そぞろふむしもきくのみちしるべ


から
此かくもん どくしよのよくふ そけうに 鹿(ろく)の まなこを してかへ
ちかきたあり
がくもん通(どほり)
どくふへの門
世がくもんがおわりに入りたちかくさんと くみてまなんでのちに まさへゆけへ このぶんにを 人あり
かくしんおやまのふ 詩会のみちゆく けいこもあり ...
ふうがの入口
ふうがの茶合
ちよけのゑ入口
此ところに むせん ...あり
ふうがの 入口
れんがちやや
人丸の社
やちまうだし
いけ花村
ごーすまき坂
とど六合
まりこの七曲く
ちやのゆまうげ
一心山
ちくぎどうのゑ 大木のくるその 本ありとて 此本の中に 大経を作り とるつくる
ちくぎ堂
孝心づか
五常坂
末代山美名寺
住(すみ)のえ
不動 二四 二六 ...あり
詩寺
橋
名門
かのの浦
書画山
おひうけ
天狗堂
ひけるで山 ...寺
...杉
○孝んぼう八九にあり
○ちくぎ堂のまへら千七なあり
末代山美名寺にまいれ 忠義堂 孝心塚 住のえの...
めいけんのみち
かくもんみちへ ...
かくもんちからを ... 此名門へ ...
此ちよけいたのさかに二つ 一つのおいまけ ... あげてまいれ
ぶんがう海た ... 共ーし
めいおんの社た 此みちへ ... まいれ
...本部 おくのいん 此で まさよ ゆくべし ...

おほじゆうだいたもぐらとうろうされ
のだいでしやうぎすごろくまりての
あそびありけるなか村ちやうと云ま
ちやのゆをうりけるがありてへぶられ
アそふのまのまはるた中みち志まは
ぶきあさんどうぐのゆくづさかふ
わしれられ志よげのいづらさがへ此
みちもふくたらの里ばかりあ
くいたへちるしてふうがのみちの入
くちまたへのたまで十七里ほどあ
ちや屋ありて是より二十一里ゆきさ
てちさーしまのみちけつのくらなる
きよくよし

まかあるくらうぐひとところあり
く冊子をこのめいぶらありみ
がくもんがやりとそのひろく [illegible]
このたありちよけいたかふ
のみちがく[illegible]をゆく [illegible]
ゆるさとうさせへぜへく [illegible]
てさのからう [illegible]
入りいけがそ [illegible] まんちのおく
かんのさ [illegible] へゆるく とまる
くみをちゃを [illegible]
てんぐ堂のまへりのあてつせん
とうそへのまへりでさず
まつくもんちやうとまへす
まさへゆけへあつまりけは
よのあつてかんて [illegible]

算用道よりいろ〳〵ぬけ道ある圖



かごかきだんなは おねむりか まうし 一寸
これ申し うろたへと おもさとき あきれ ます る
そろばんだし
いかさま これの むかうべから
そろばんだし
ぬけうち
ぬけうち
さんやれすゝ つばは ありくが あろう まあ そこ

此やうに二千作大年にいちんが いろ〳〵よ人〴〵さんよう[illegible] たびやくけんとけでし[illegible] とうけうまでゐる[illegible]

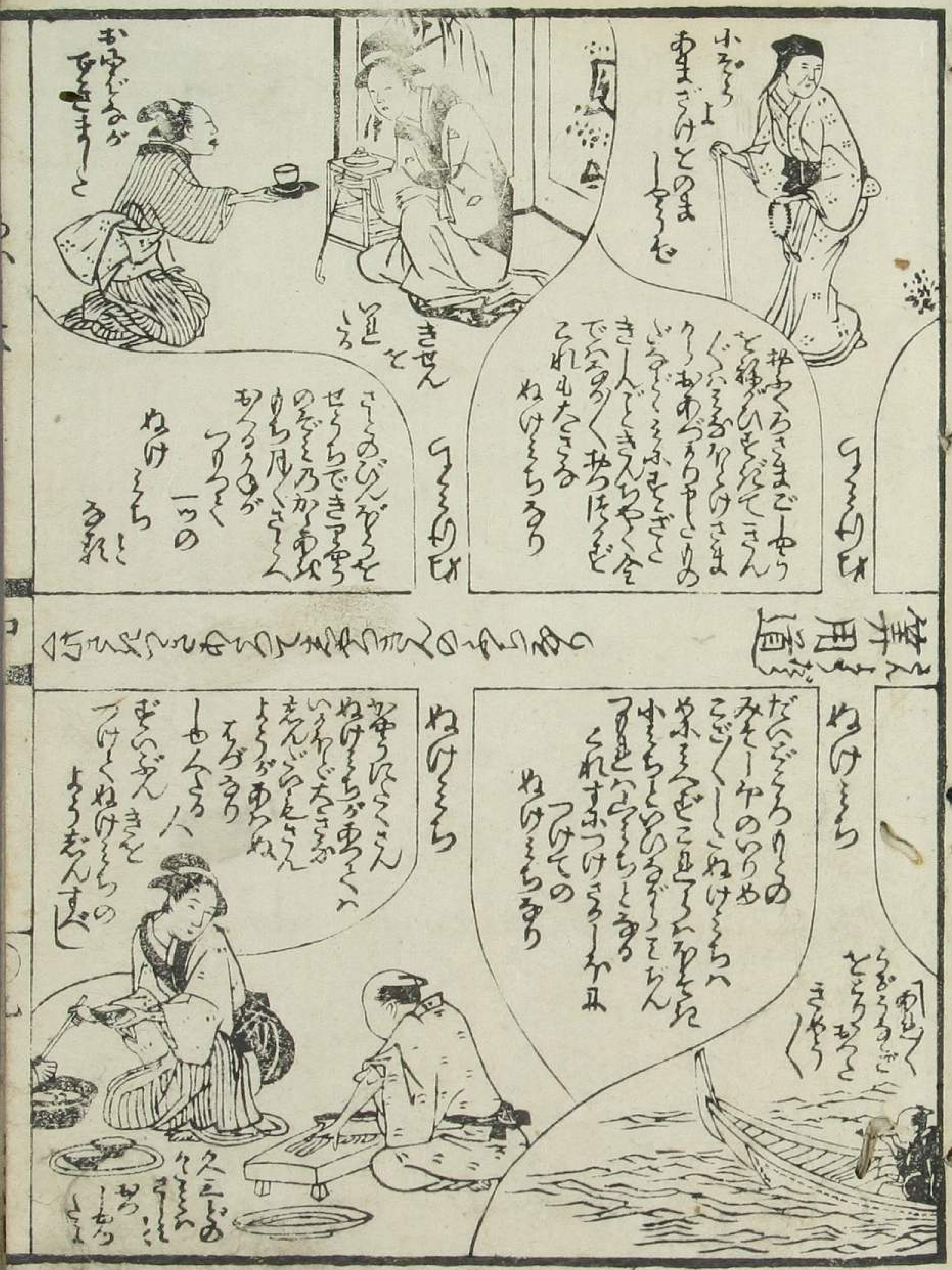
○此あやうのさん[illegible] ゆうとつけてる[illegible] あるりのぬけ道の [illegible] できることろ[illegible] おり〳〵へこれ

そのくるまのぬけ道 ぜんのうち用くところ [illegible]さんようのうちの 目当りこれをぬけうち さとひけうちうりのよ

ちやうあひのきまり つきそへきぜに[illegible] 一せん[illegible]のねやけ くらのまへすゝ[illegible]て たかけのこと [illegible]のまへの さんやの [illegible] 小ぜんのたな まくべくこれ てい[illegible] おどろ おどくの ぬけうち あり

むかしのよまでまより ぞんぞんの[illegible] [illegible]ゆる[illegible] ちんでろちの[illegible] これ[illegible]だんなのもちね ぬけうちなり

一あれ人[illegible]これほどおかん ぬけうち[illegible]をして おやきんのふちへおまろ までゆ[illegible]とさん ゆうたらせゆく[illegible]



おゆどのが ござりまして
小ぞう よ あまざけとのま しやうせ
きせん を 道 ろ
ぬけうち
ぬけうち
ぬけうち
久こよ [illegible]
[illegible]

ぬけ道 [illegible]まで[illegible]やう [illegible]でさん [illegible]けさま [illegible]これの [illegible]さま[illegible] きん[illegible] でこる[illegible] これもたゝる ぬけうちあり

さうのびんぞうを せうちできるを のぞくのかゝあね おもろうもが つりつく 一つの ぬけうち とこ あれ

算用道

[illegible]

だいぶうろりくの みそ一升ののりや こぶくしこぬけうちへ [illegible] [illegible] [illegible] くれすふつけさるし[illegible] つけての ぬけうちあり

[illegible]ぬけうちが[illegible] [illegible] ようがあちね [illegible] 一せんの人 ぜいぶん きんと つけくぬけうちの ようぞんすど

借金の淵より分散寺へいたる道乃図

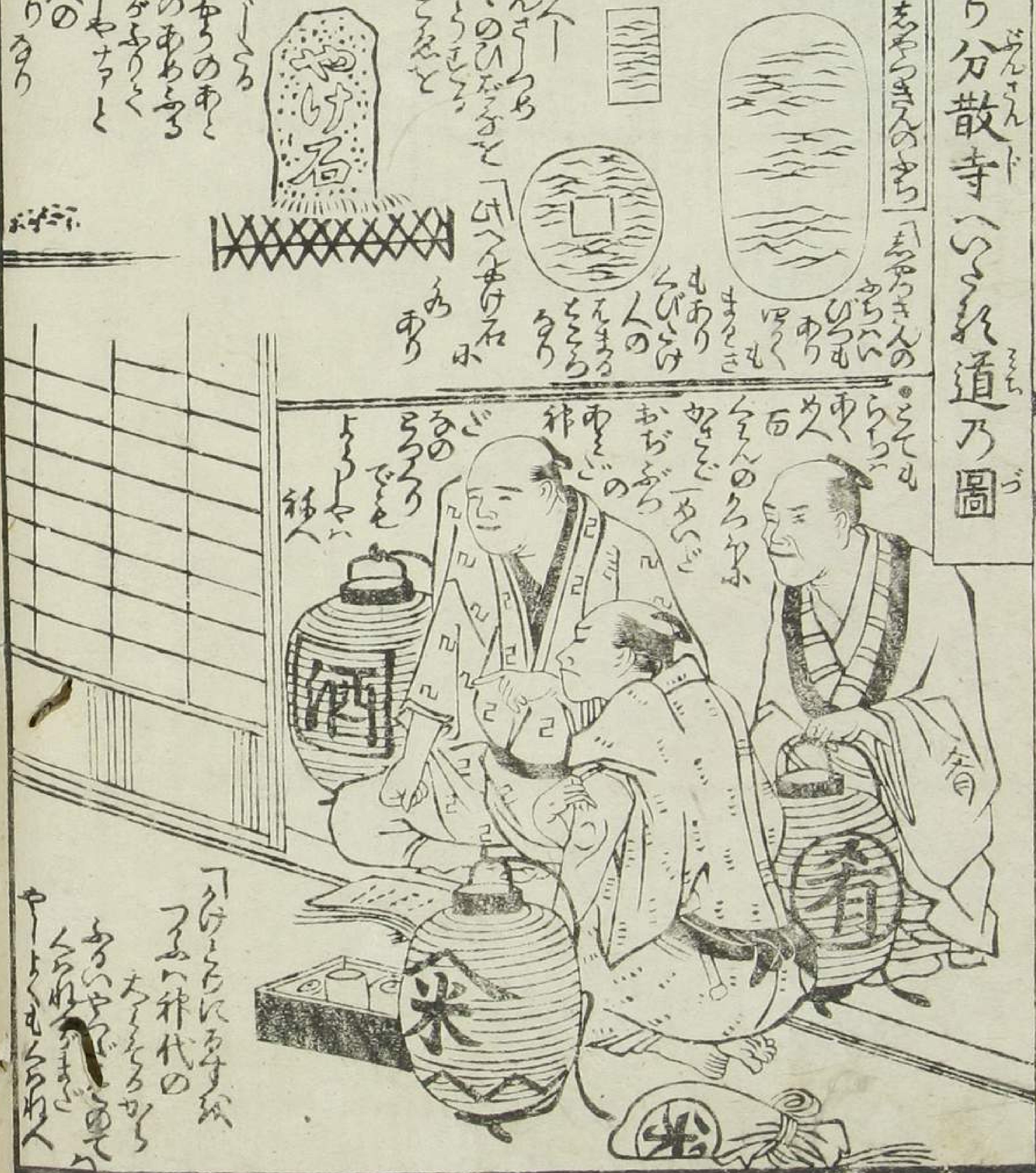
此ところへむかし せつきの二ぶらけ ありがたうそくの よろくさかかんざへ ねころつてくらふ かけみえ ほくさんと いくびあきまいー くらひおやうの めんてさくる かさごーのそこ とへんぽんーとひるがへー ゆくもりちやちんさーつち ひきらからそく のひながを ちらしてたらくひぞうもくら のぞくしききのこゑと わけてきくり 夕道ハ秋ささ まつくらのさけ あてる一わうと そぶーてそい新くしくる ふるがけの古跡ちうのあと うち今ももうきのあわらる よろぶへらちはひがふりく あらいかなんそひしやナアと さけぶよし古人の めぐらり あり

志やつきんのかち

「志やつきんのかちハ いかにも めり はなく もまさき もあり くびらけ 人の えまぬる ちとちら かり

「此へんかけ石 ハ あり

やけ石



●らても らちハ めでく あ石 くさんのくゝかふ かなご一やんご おちぶれ 神のあと ごうの らつくり でも よふしやい 神人

「ひけもちにあるおハ つるハ神代の ありふらいそ あさいやうかてへ くられまいかり やよくもくられん

家賊村分散寺

（かさいむらぶんさんじ）

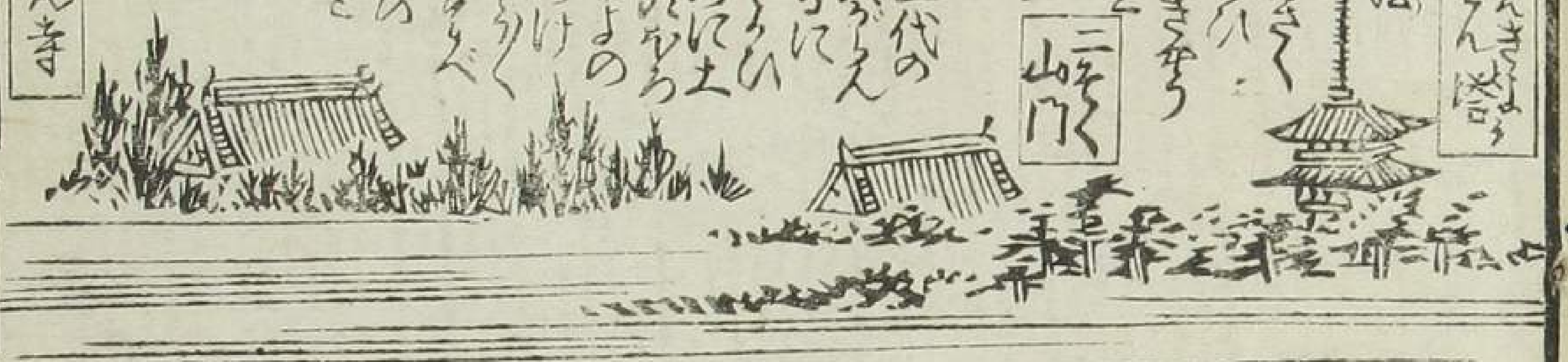
○ぶんさんねつさいさう 去る ほうら捨ふけ七ゟん まちまそ 相にわきそつのほさく ○あまり寺かへさんぜんそ志八 上人志やんのさゆふうんきまう くわかちうけのさまいうを つくめ志やくもうけの あくろうをそばきりいろ の捨けくおれやきれくう わのあらぶとふらせてざ二代の うちに十ゟんまぐらのちかえ ところもう一のこ志やうるに おくされへいけハしまのくそかひ の一宗のへんなきのさもに土 義つくりの一宗のてう次わう びりの合力上人いちの一よの よくんてら谷のむーせいわけ 志んおいへとろんけーとやうく びんぼう神の中ものかみからん て九尺二けんのゆふさくさの 一字をさへたてうーちぼうを まちふろそうもつうのん ひんらう寺とあらくなむ

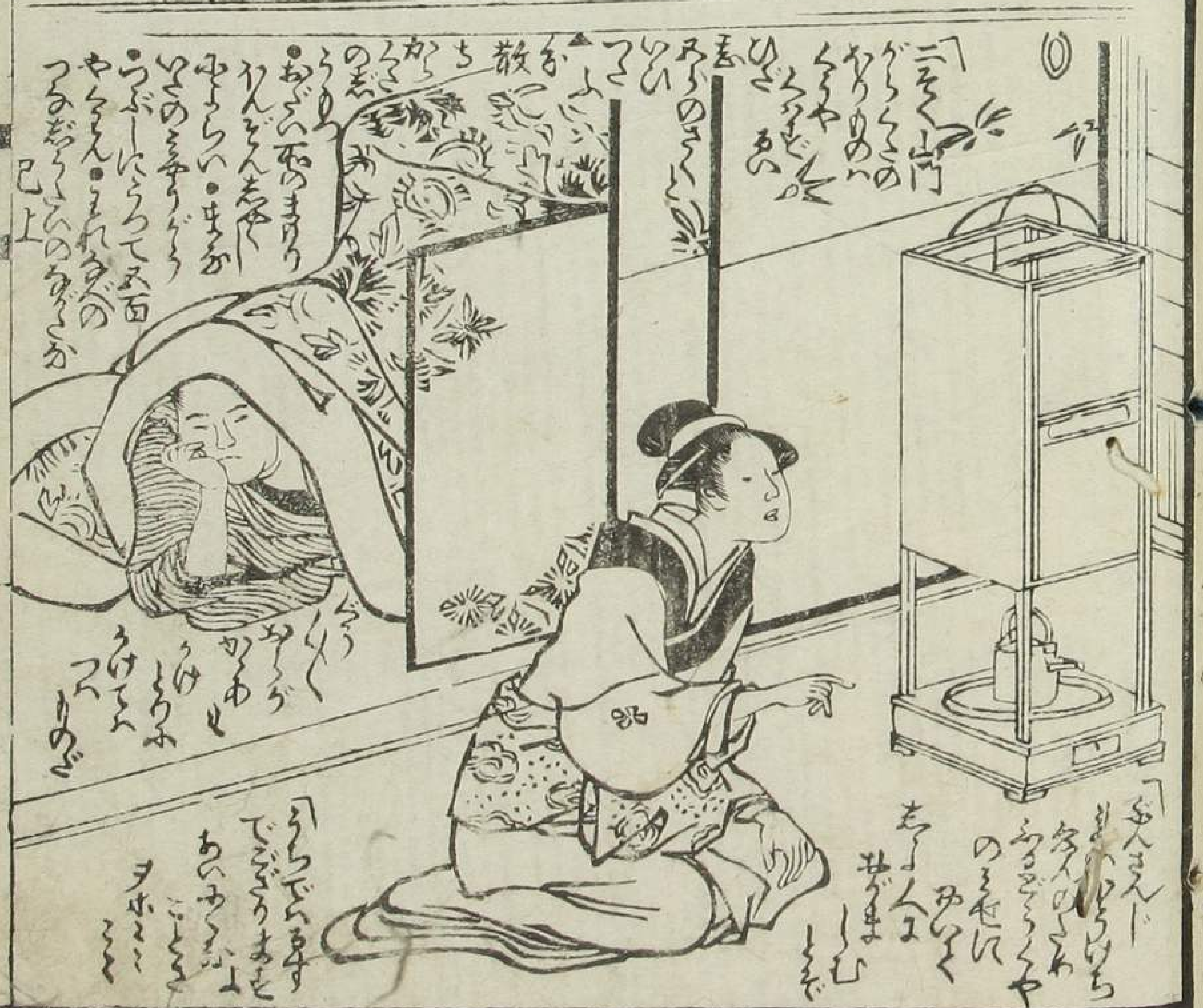
○此寺のうしろに かうらん亭の あとあり

いんきよう ざらん塔

二そく 山門

ぶんさん寺





「二そく山門 がらくこの かめのん くるや くつそ ちもあ

ひさしのさくら ひ かつ

散 ちかろうの事

○わむとあの年まり りんきん志らし ゆからい・ころか 今のそうやう らぶーにらつて去何 やらえん・それらの つみおちらひのあさか 己上

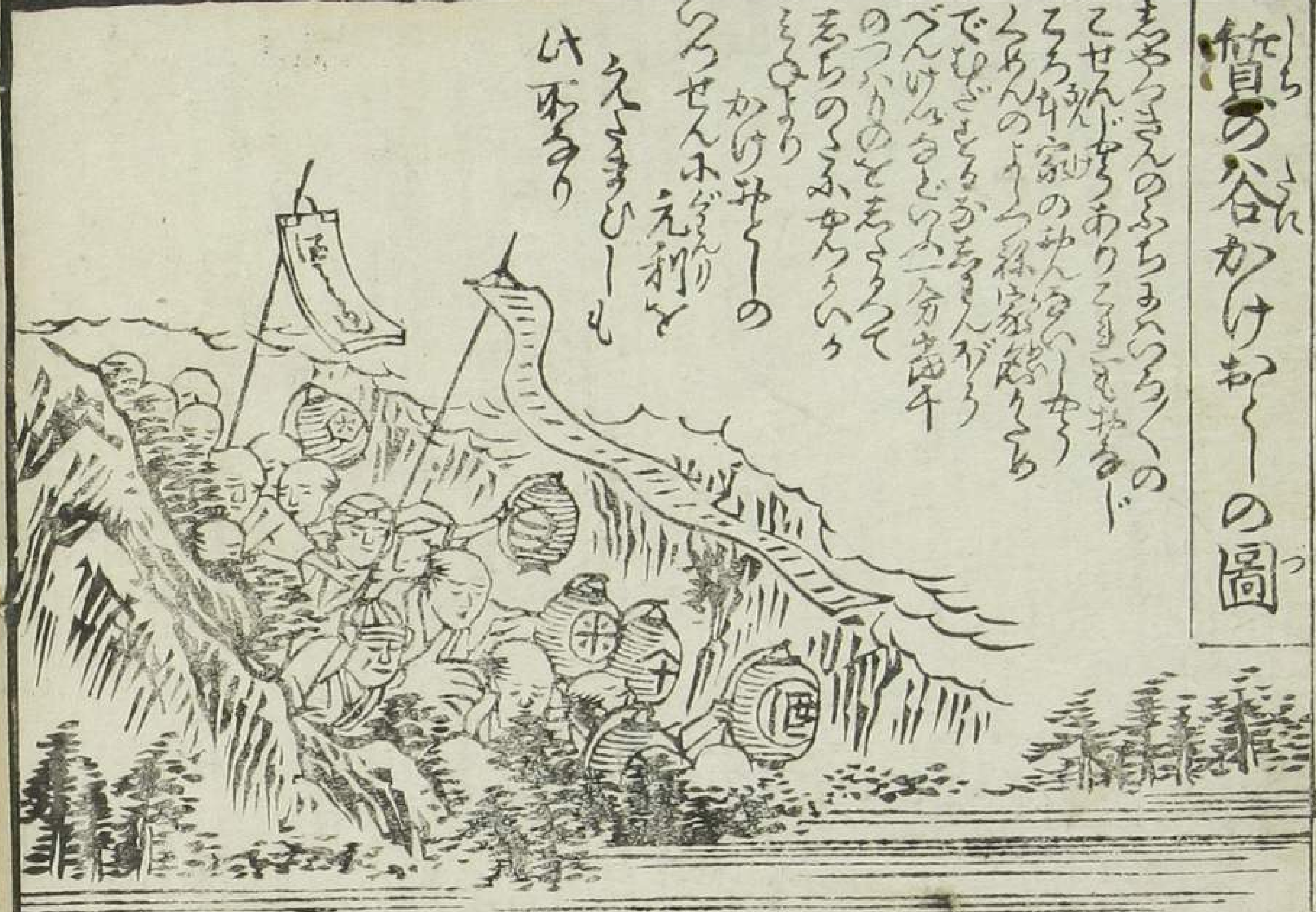
「ふうろく かゆうか かゆも ふけふ りけしよ つん のもんの

「お人さん おかへりの ねおまつて めうそくや のおせに おく あすへ人ハ 神まゝ しむ ござ

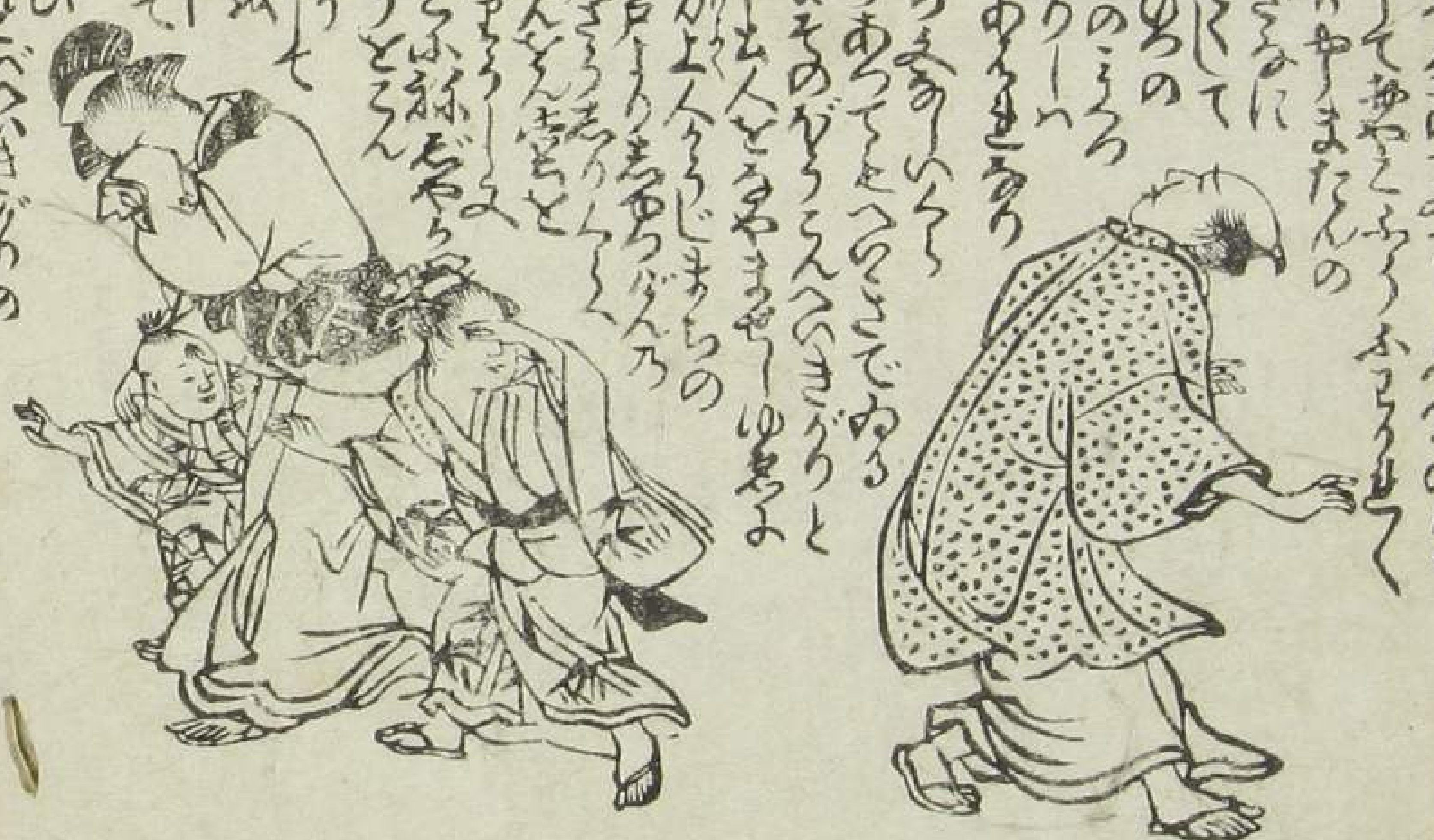
「うちでもあまず でぶうあまも あのゆうがいな ヲホヽヽヽヽ

質の谷かけおとしの圖

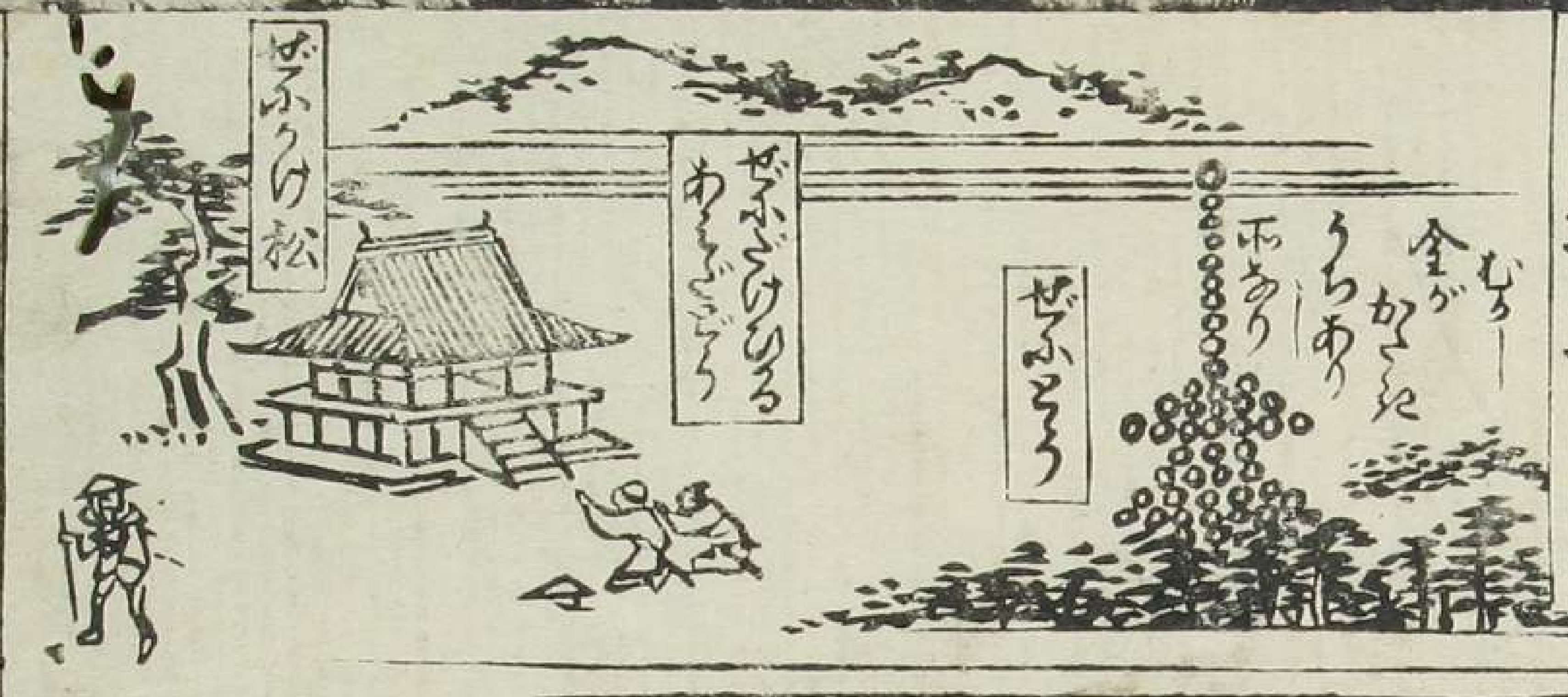
まやさんのふちまへうろくの
こせんじやうありてまへもおるじ
ろう件家のみんなかいしなう
くわんのよりつ銀家あるくるあ
でむざさるかきさんがら
べんけいなどの一分壱両千
のつかりのぞ志うろて
志ちのくふおんうひつ
ミ○より
かけおとしの
ろうせん不かぎんり元利を
えさまひしも
此所なり



おごる平家の一又ならしたんさへらく
ゆうしてあやくふらくふこうせて
しものやまたんの
うらざるに
ひっそくして
ちあざの
そこのころ
しあろーに
あるまーなり
此ちよ方ーいくら
かりかあってゝへつてさでゐる
少々そのがうろんへてきがうと
けし出人とろやまやしゆきよ
谷力上人かじまちの
井戸より志ぶつぶんろ
そんさろ志つらく
らんせん高ちと
こんかうしよ
よろこふ彌だやら
ざうとそん
アうして
昧城
けして
志まひ
ひとへへいきがりの
そらかへやーしくれとひつくく

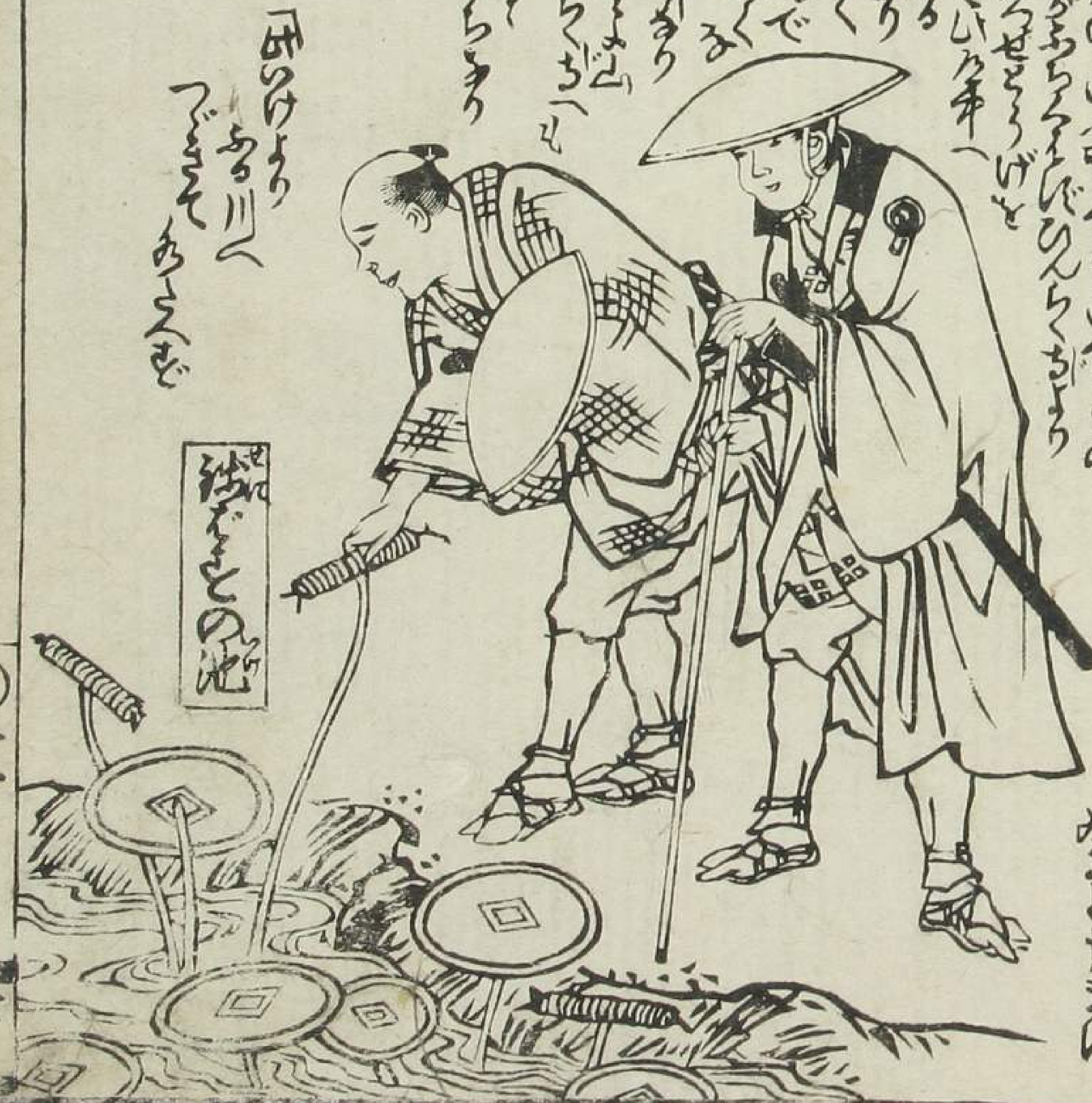


中銭道の圖



ぜふけ松
ぜふつけひるあまぶてらう
ぜふそう
むちー金がかさねうちあり不あり

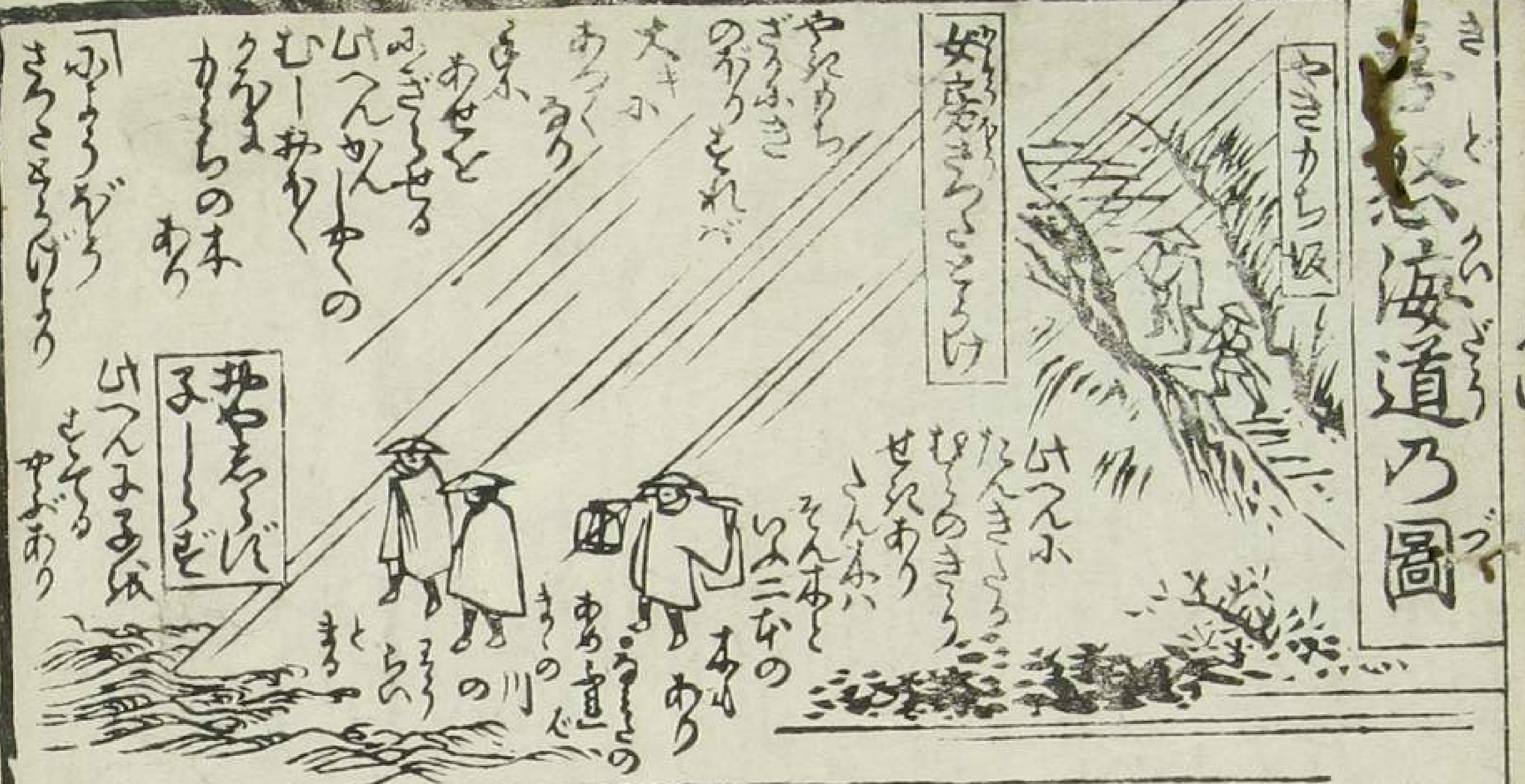
中銭道ハちうぞくのぜふのあるなか
ろ中なりかくぞうのたのーしむすく
そのうちうちうもかーへ
いろろくいよ不そてるぶらくらくの
くまがふちくそびひんらくちよう
志のそせどうけを
ふてけ平へ
きるる
なり
あぎく
てぶるで
きらく
なり
ろ年なり
ふくまよ山
かんらくちへも
ゆく
ところなり



「此のけより高川へつきそ出るくんぞ

「けのけへぜふ亀多かんでもゆるとヤまれ

喜怒哀海道乃圖



やきもち坂

此へんに たんきさうろう むらのきう せんあり さんみハ そのあとを いに二女の あり

女房まちをまけ

やれやれ ざうふきのかわもれバ 大きな あらそひあり

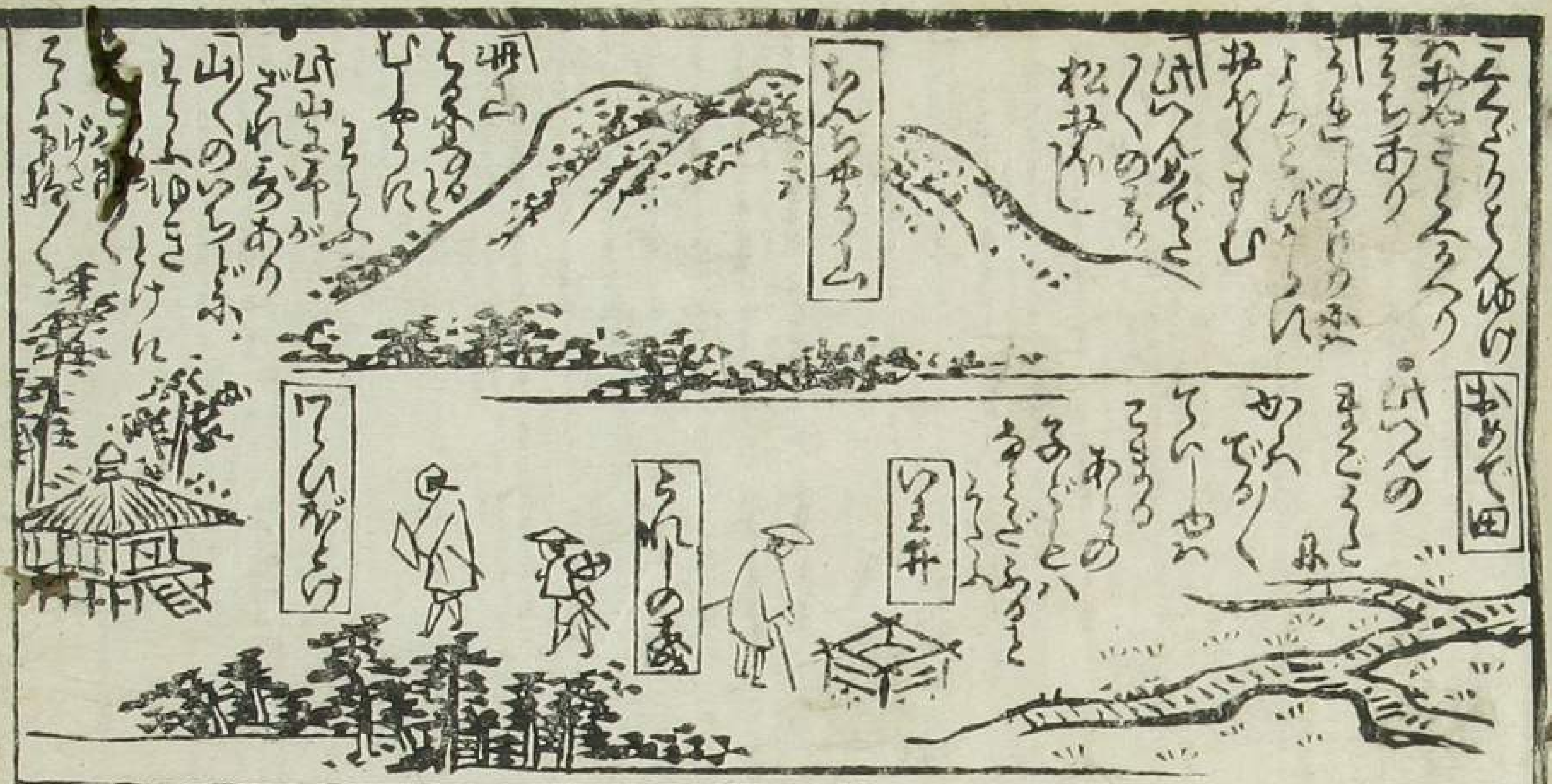
ここに わせたを ふさがせる むへんかんしやくの むしおもく くるま かちの本 あり

「ふうふげんくわ まことをかけり

拙やさしれ まーしるぞ

いつんもるを もとる やぶあり

「うまの 道」 の川 まつ らの とまる



ここがらくぜいの おかめといふ ところあり こなたのけはの ところへぎんれば よみかよしすむ 「いろんな くのさかな 松まかし

おかめ田

此へんの まごころ めんでたく てゐーす あふの ふくとハ まこころを そろへ

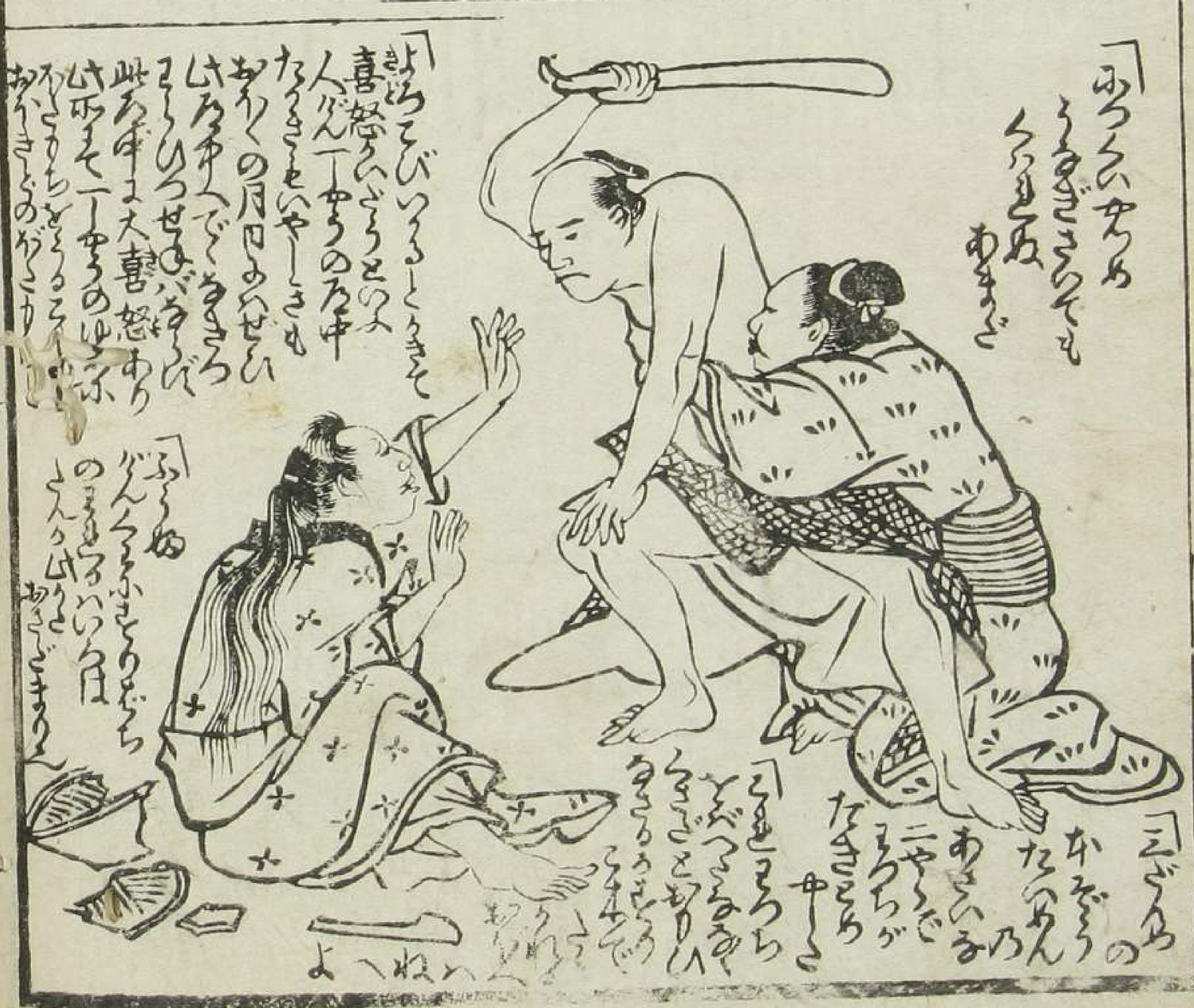
いま井

ちらしの森

ゑんまかほ山

けらけらだけ

「洒落山 ところをかるる もかられ ここに 山の天神が ござれらあり 「山くのいろぶん ちろふゆき さけれ ころがり げらげら わらふ



「ふてくされめ うぬぎさまでも くらはせねば あきまぬ

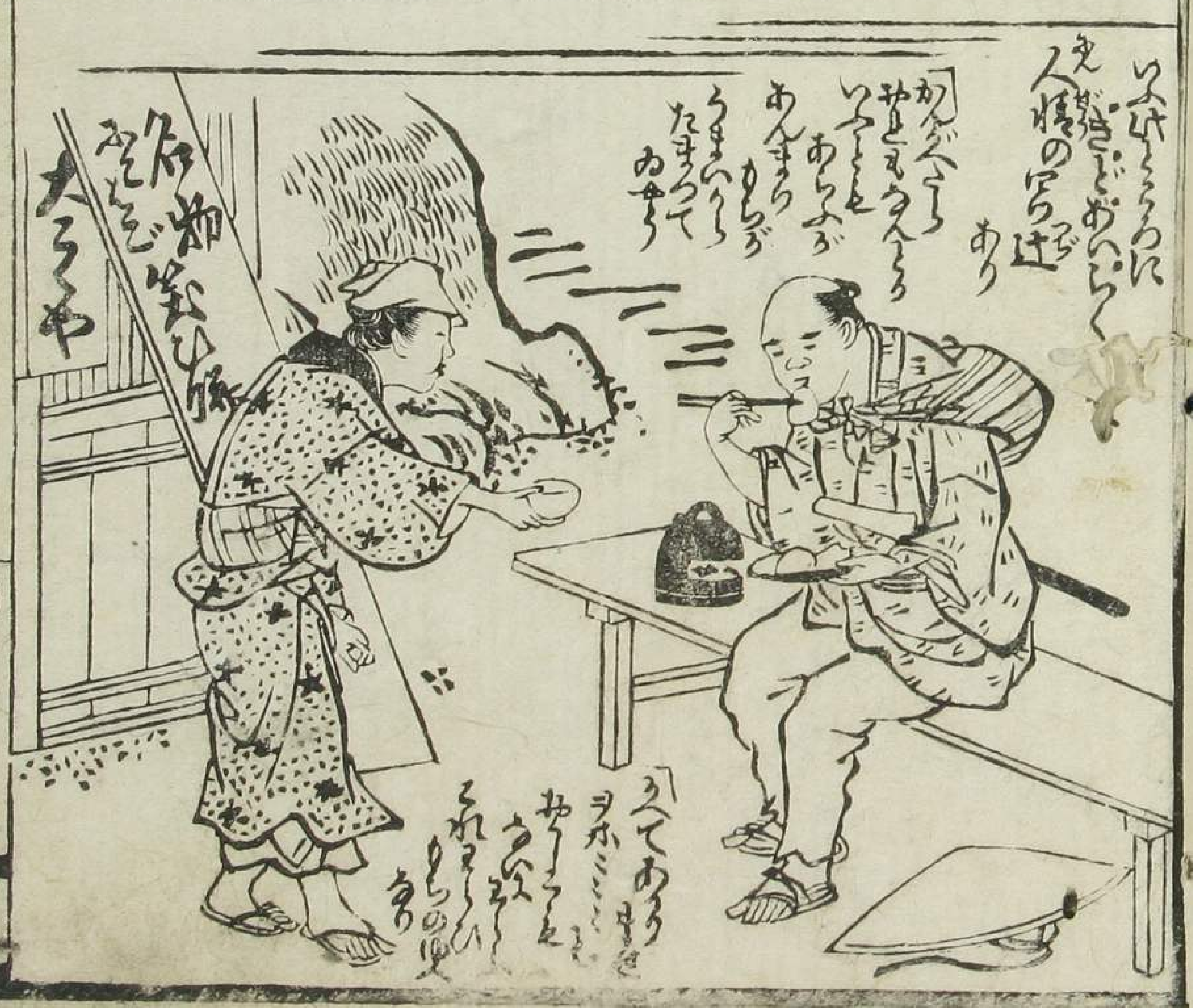
「よろこびいるとくきて 喜怒あいらくの四つの 人げん一生ちうの内中 たのしミもいやしきも おかくの月日のへだてを さへぎへでくまかせ こころひろせば さびしい 此ちまで大喜怒あり さもそて一生ちうのはじめ あらそらをそる こなたも おかききのかたさ

「ふりぬ げんくわふさそのそち のあまりいろは よんりなるを おさごまんそ

「こざんすの かそうの たいめんの あさいを 二やくで そろちが たまちち 中さ

「とまろち とべつてるを さぎとわりし あきるかそろ こまてで おかくるる

よへねへ



いかどころに 喜怒をはらく 人情の辻 あり

「わたくしも おしるあまへ いろいろと おちゃあがり あまあらも うまいちり たまつて ぬすり

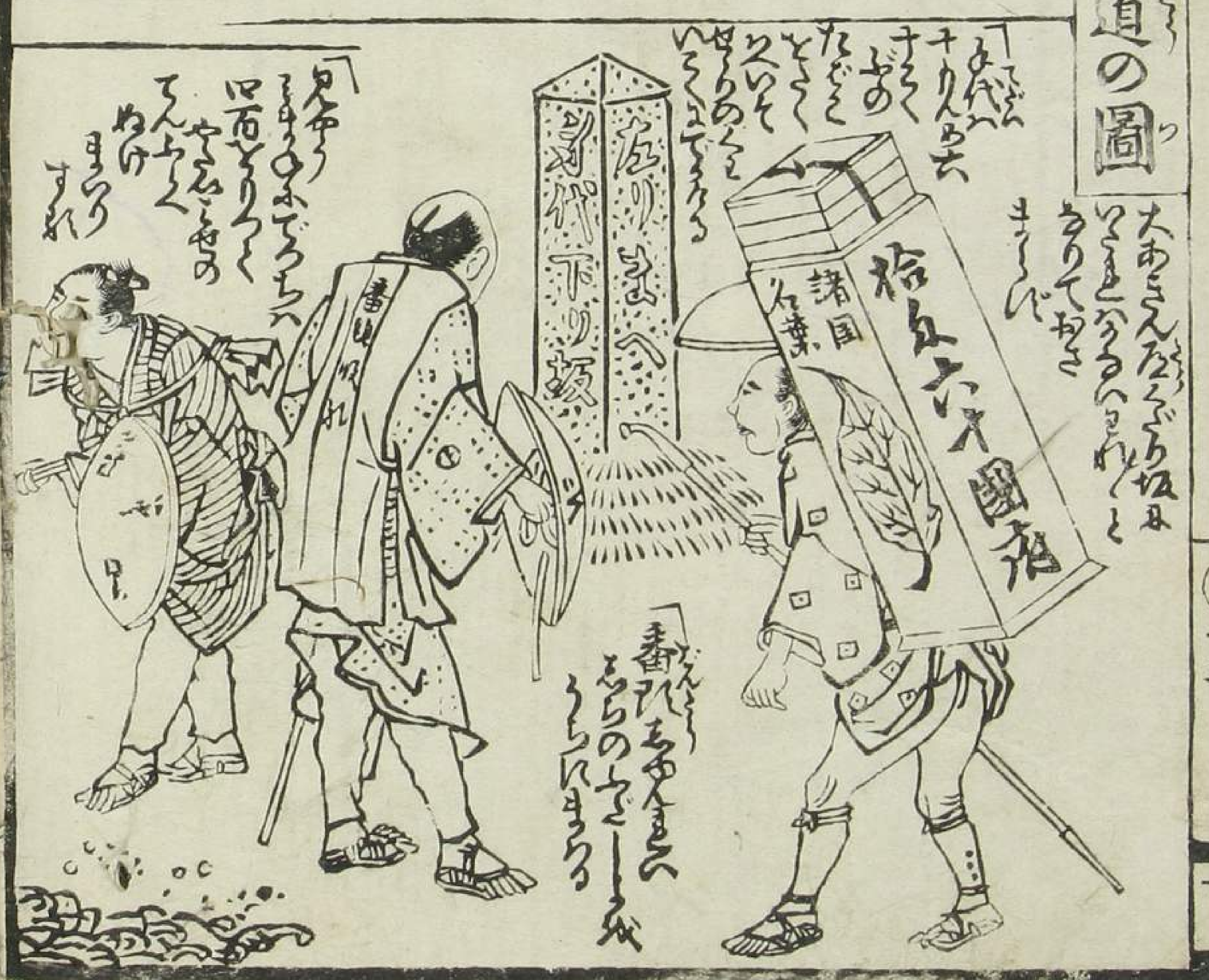
名物 笑ひ餅 みそぞ

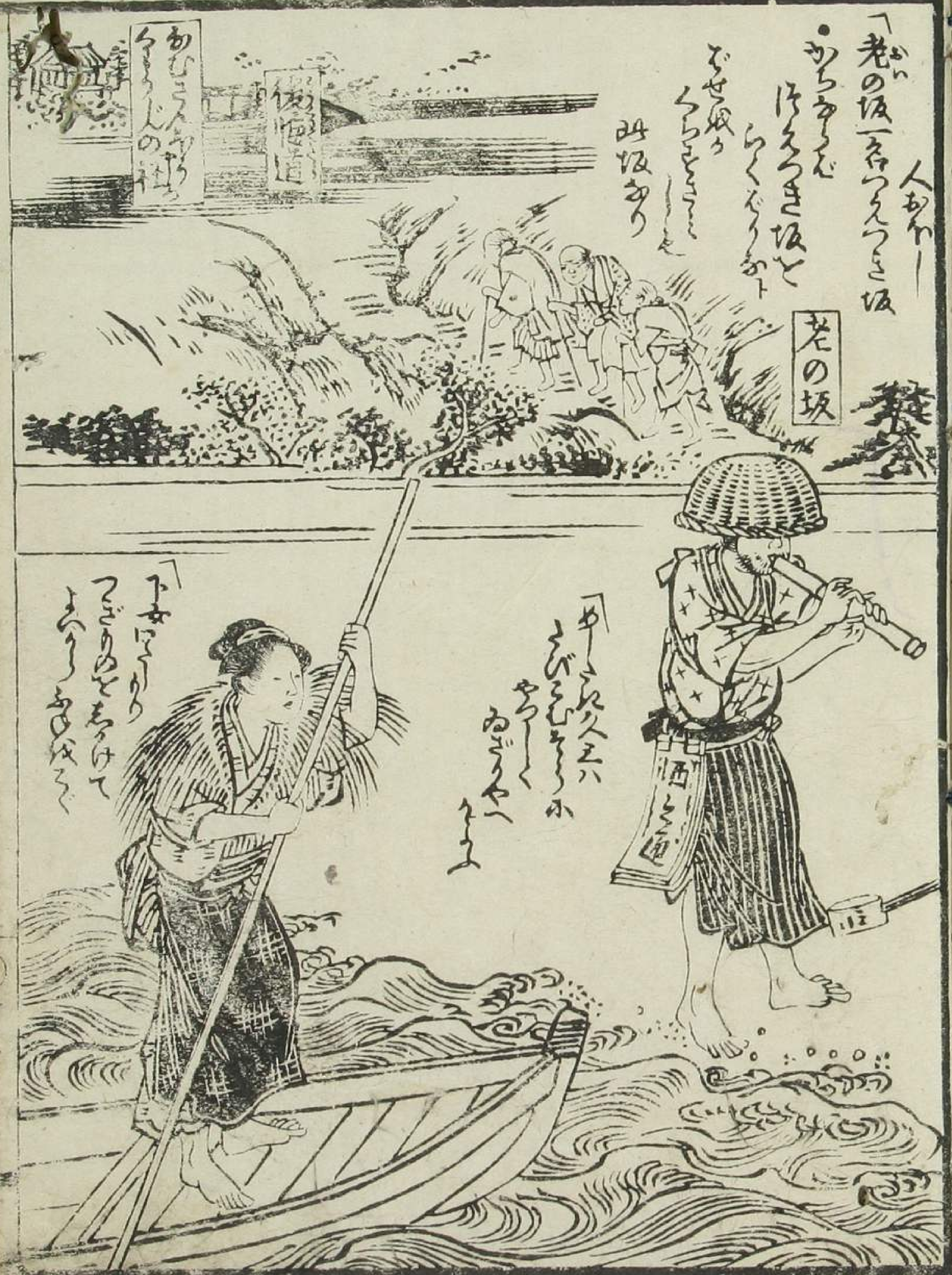
大らくや

「さて おかし ヨホここ おもしろ うた ころもし もちの見

後悔道へ出る大あきさん道の圖

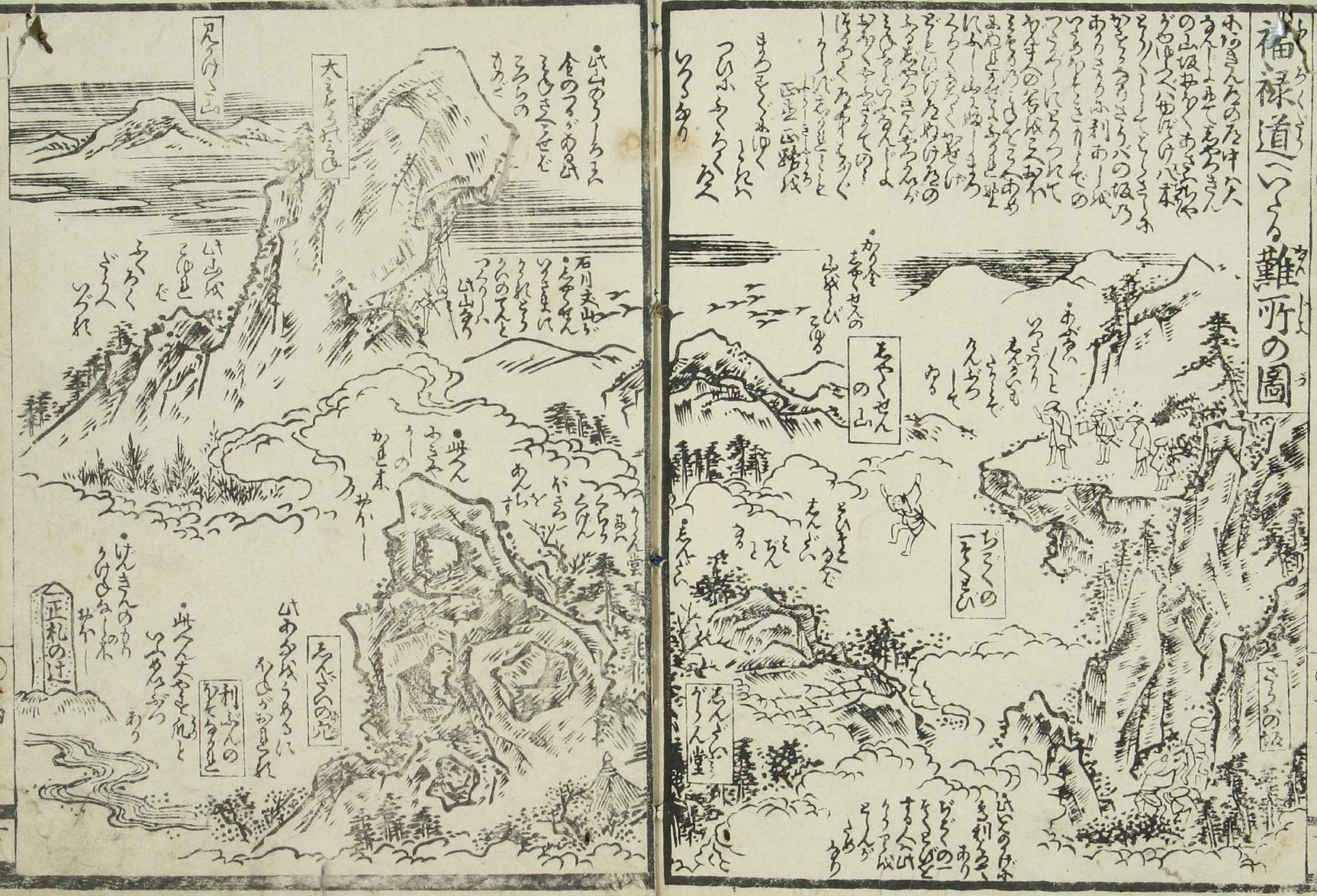
このへのみちハおやハあきさんハ小あきさんハ
そのそ二百もちのみちありて大あきさんハ小あ
きんどうやらの気しよいかげんにどども
かさくしおりよ山やのよりものぞらくと
まへおりひのやりぶきかれをふりうくり
たんざいおり入ふうんをいふくをゆくおく
そろくもおもえおもろこうつとかうきてど
ふうくおもちてかてまりるところをかけ
ござうすふきれてたえるふくろうさう
よ拵りむきるしおりゆさんハちすれ
○老へる坂のつんハづつさそうすある
のが年くらりのごあ坂のとやる小さち
あり又難あハせころでまいの又ハあり
よおやめりの山でおくまちんでだんお
のあさゆとりの縁よおやびの日までとろく
ひそうとんでうまやせてふさるさん
そんのゆくしと秘かし
さうへきさうねやうれようぞんすぐ
めくすきそくもゆみねさるあり
○ちさいうちさせへのちらよのうつけバ
又倉よ山ハあかくろへゆくてあるづれ
老の坂とのぐらつあくそうでそてくう
なくへいうてうでうしさんがら
くうらだんの中の坂おやと
あくのまありぞみんぶつて
下ゆるあくさしふをさる


大あきさんたつぶり坂ハいそぎかゝるへおれくとありておさましび
「なむ千りんあい十ぶおすどくたどそとくへいそせかのくをいそくみでまする
左りまへ
右代下り坂
拾良六十國花
諸国名葉
番頭
「日本ちうまりのよでろちち六四百とりつくやなさきのてんふくぬけまりすれ
「番頭さあんまへあちのきさしたろうられまろ

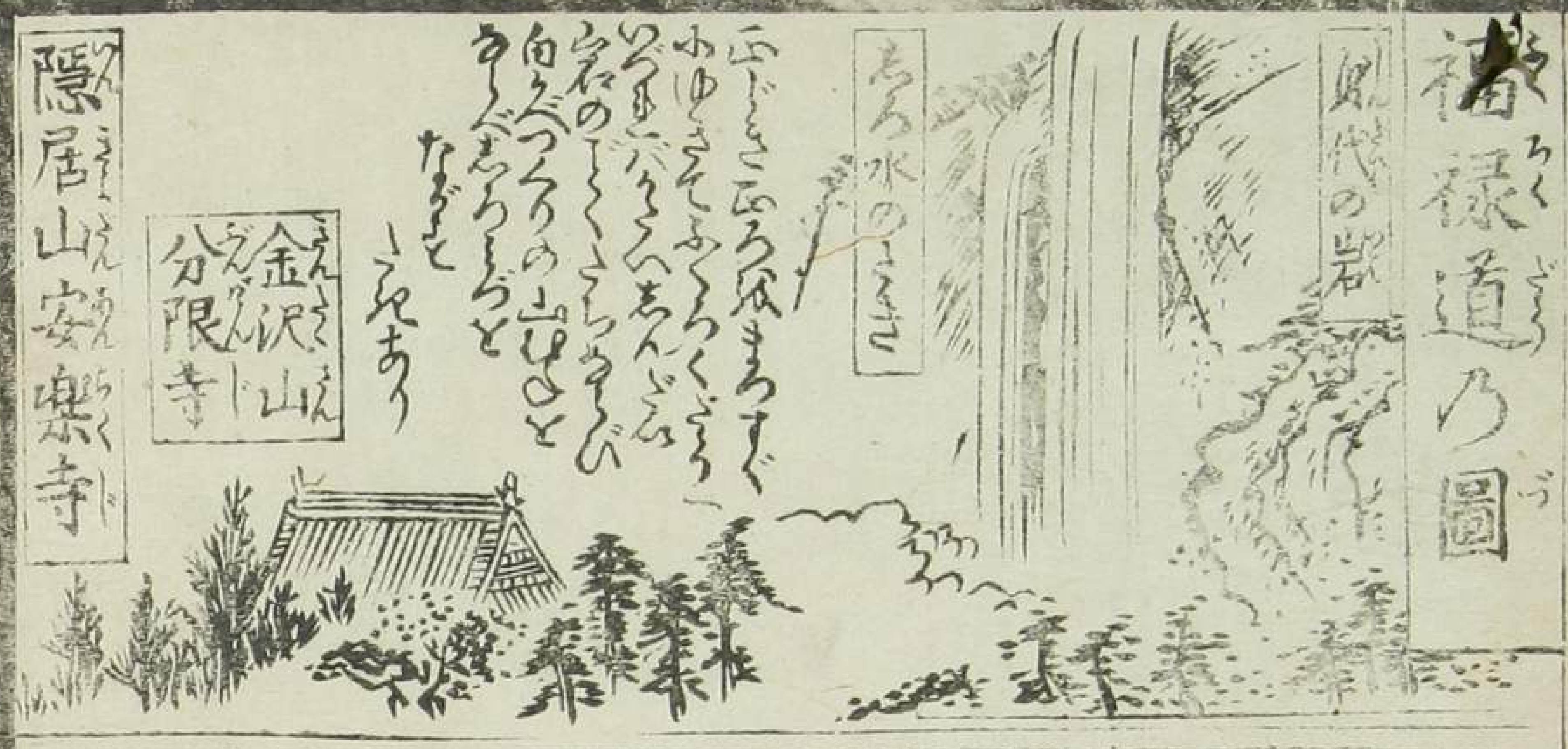

後悔道
あむこんあち今まうんの神
人あわし
「老の坂一名つんつき坂
・からかうむけんろうき坂とらくぞりかト
ぎせ坂のくらきとくらしく
此坂あり
老の坂
「やつこれ久三ハとびこむようにやらしくねざうやへまよ
「下女にくりつぎめをきかけてよろしくたのむ
酒と道

福禄道へのぼる難所の圖

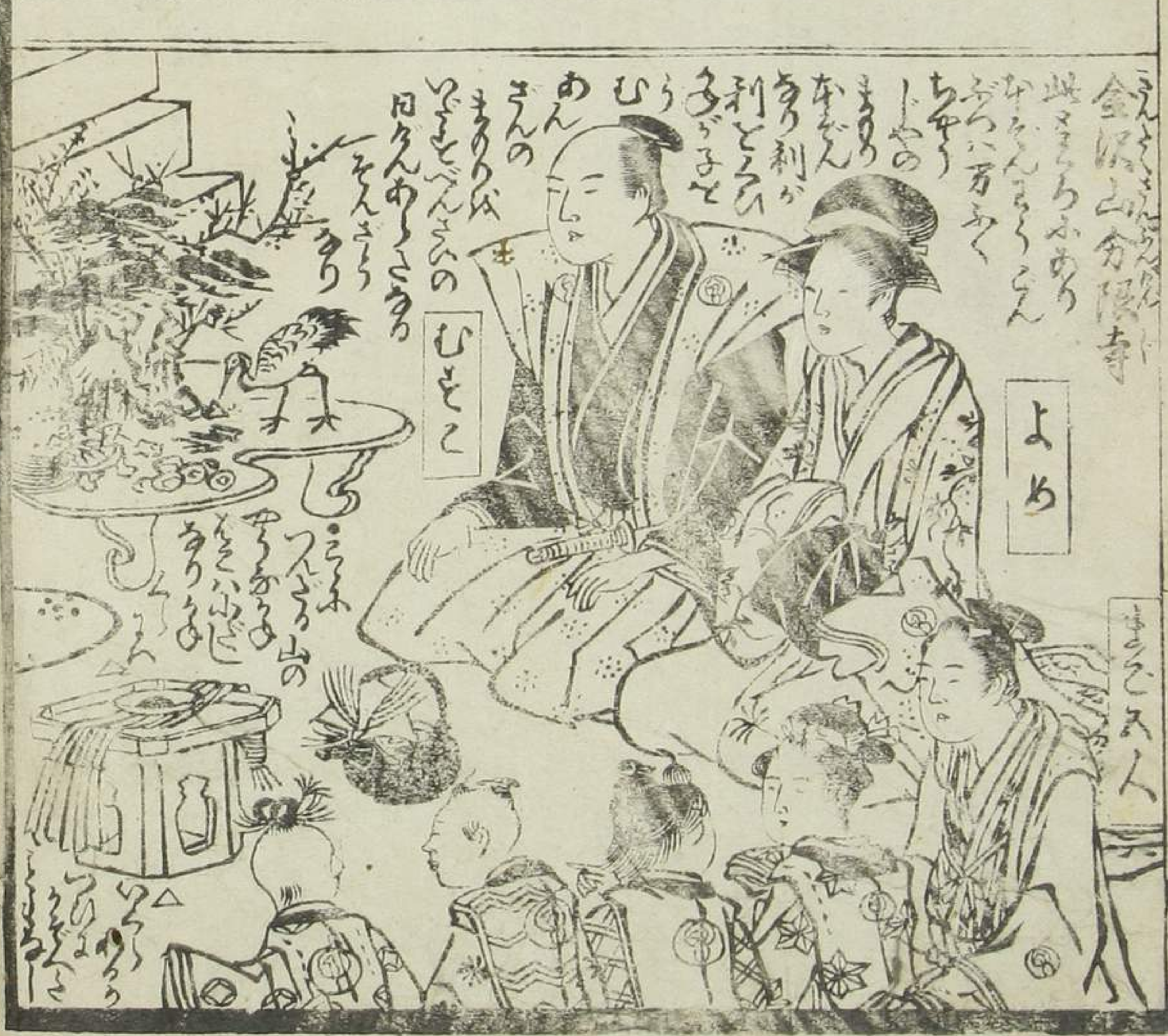
ふうきんみのたけハ大うんしよりてちやうきんの山坂ありくあさこれやがゆくべいせけの八本とうくしんどうくさうぶかきちうがいさうべの坂乃ありさうらふ利あしみつゐありときこうけそでのつらづつれどうつれてやすへの名ぶこえあれまちのうこもとうへあわみあけうたふかくせ地とれい一山大坂一まづくろく京々くかせげびをいけみぬけたのふるみやうきんやうめがましるうにいなんじよおおくおさうてのほそくみあすちぐしりゝれをのまいことと正直一心雑段まろもくぶゆくこれへつゐふくろくへいるなり


見へけい山
大まなる岩ほ
●此山のうしろは金のつるがある故まゝさへこぜぞころちのあなご
石川五右衛門がみせんのまゝ里にくれそうらのてんとつくりし此山道
此山坂こゆるだふくろくぐらへいづれ
●此んふきやうしのかね木あり
うん堂
ちやうさつがらうどを
あんちす
けんきんのあたりのかけ
正札の辻
●此ふん大やまと見とりとあかふあり
利ぶんのかくせうき
此あなからあるにかくゆがねまかれ
ちんざくの穴
●かね峯ちやくせんの山へわたるとて
ちやくせんの山
●あれまくとそろうちやうちやうくんぶうしてゐる
ちとくの一本ばし
とひきふちんぶんとだんとする
ちんぶん
ちんぶかたうげがうん堂
さうろの坂
ひとつのみちは利ありどくの一すぢをするへ此ぐうかいとんずるなり

福禄道乃圖


財代の岩
志ろ水のたき
金沢山分限寺
隱居山安樂寺

ふしぎさふしぎはまつすぐ
みゆきそふくろくどう
いかほど六かへちんぢん
岩のてくらしかうび
白くつるの山ほど
あくぢろうと
なづけ
[illegible]あり



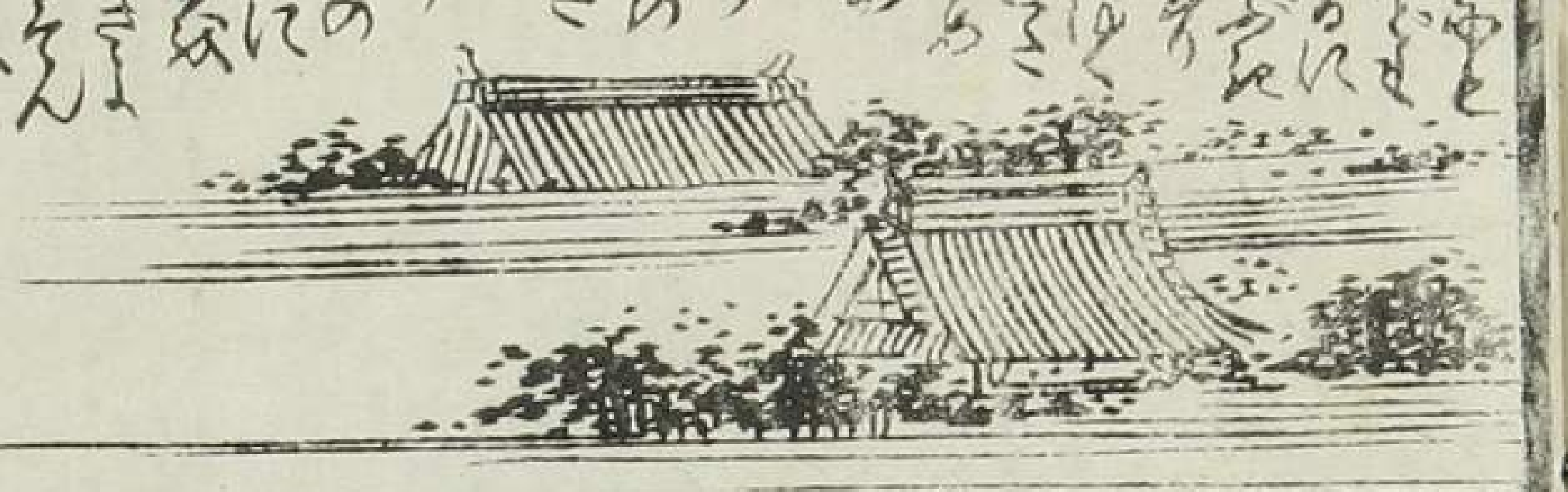
金沢山分限寺
此てらのぶめう
みやうにうぶく
ふかく万ふく
ちやう
じやの
まるの
かぜん
ありの利が
利どうひ
あづら子で
うむ
めん
さんの
まものは
いでもとべんさいの
日々んおもしさうな
そんさう
あり

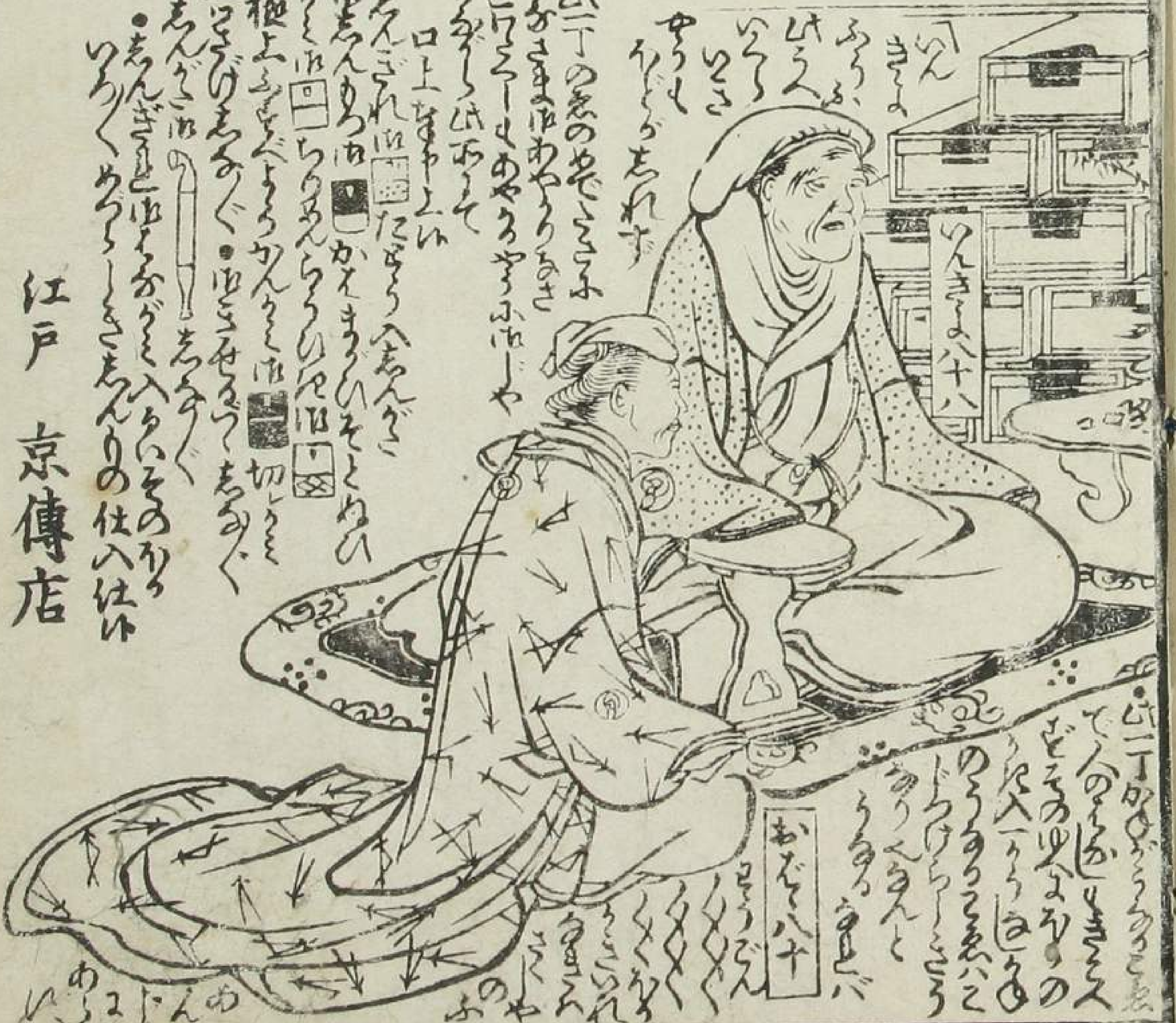
●うふ
つくろ山の
やまかうち
そこいらだし
ありさ
ふくん

△いつう
かろう
いのよ
きよくさ
[illegible]

上のほうきこのくだりもとを
つりくわりんこれにも
みひつくわりんこれに
みんぐん百年のてらぢや
そうりつのまれあり
くらういんのやりまかく
てまいらぬでもあるさ
へやあしてむかし
もさらまらだから
とらりむかしを
ちやくらいとあり
だりくもるいまの
まのかつれてくさ
らくはなせで
老ての[illegible]
ありかくてあしの
たのしやすうらに
ちせんの[illegible]
こくそのゑきよ
ざんまいりて志そん
ん多いふきらいの人は
へかさうでもいしてもんぐ
すべてさうろう

これ人ぐん一生のうちの
志あんくりさだは
めんらくじは
福のつまあり
かぞんかく




いんきよ八十八
おばゝ八十

いん
きよ
ふうふ
ひさしく
いつも
めでたさ
ゆうもひだらけあれず

▲此一丁の老のたとへのさ
こゝがこまのはおもしろき
まいりてしよおやうさりふれしや
まだ[illegible]はありて
口上たばこ入
●きんごれ紙たばこ入きんぐさ
此志んもつ紙たばこ入かえまうひそくぬひ
うく紙ちのあらつひ紙切
極上ふうぞくよりかんくく紙
一つさびあらく●紙きせるてあらく
●きんぎ紙きせるあらく
●きんぎせる紙たばこ入かくいそのうち
いろいくめづらしきもんりの仕入紙

江戸 京傳店

此一丁の[illegible]
で人のをしきさく
どそのまよやつの
うち人一からはる
のうつさ[illegible]
どうけらしさう
ありへもんと
うらう[illegible]

うゝふゝ
くゝゝゝ
くゝゝゝ
くゝゝゝ
ちきられ
あさん
さく
のや
ふ

めんはにんめ
わら
ひ

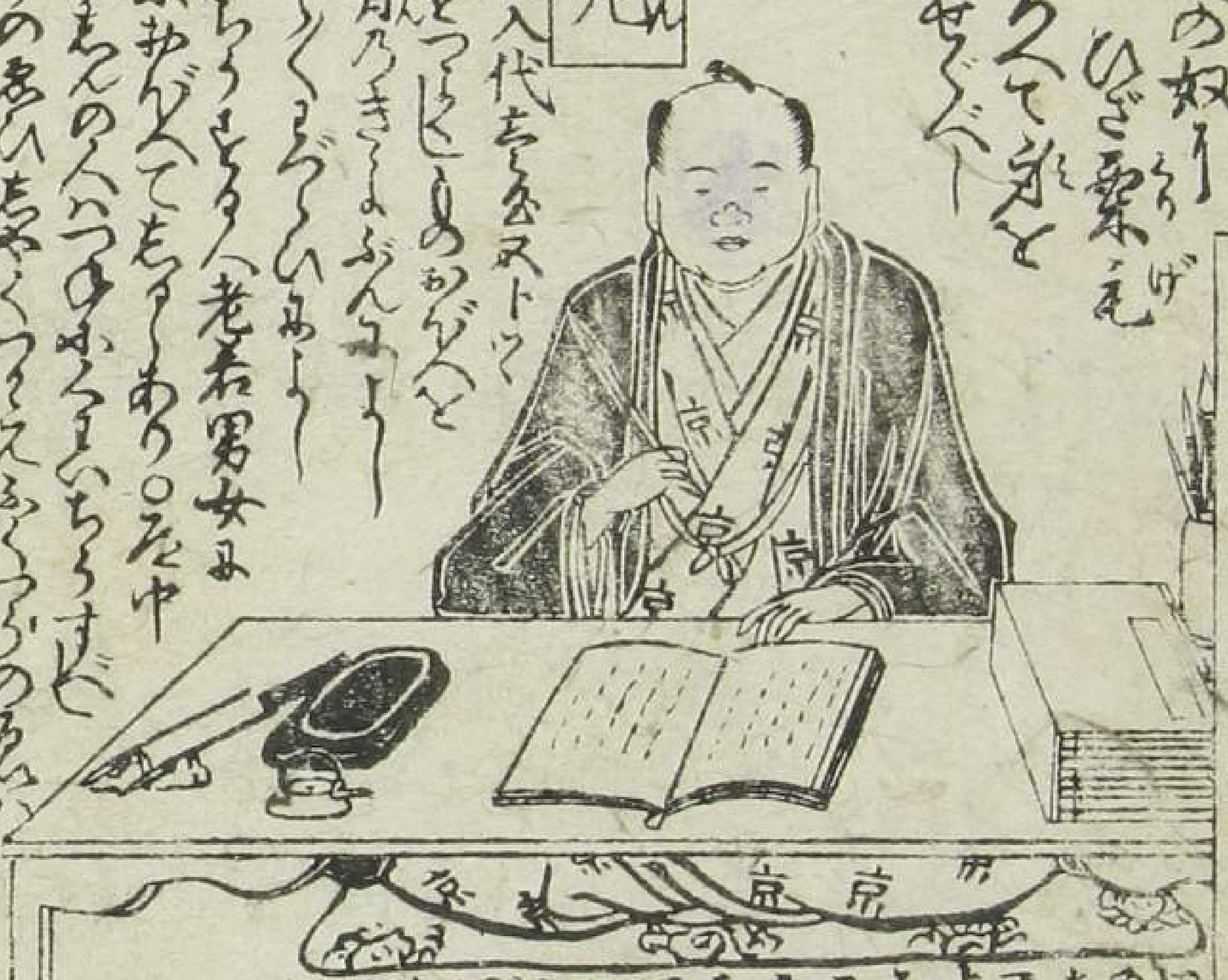
●人間一生道法（にんげんいつしやうのみちのり）

たんじやうが池 一里
ちうやく村 二十五里
くらかく坂 二十五里
しらげのたうげ 三十八里
ちう老の坂 四十里
しあんばし 四十八里
のらのや村 四十二里
人間一生みひまけ 五十里
つゑつき坂 六十里
なげづらの里 六十一里
こしかゞまれ山 七十里
二度わかこ山 八十里
よいのまゝ嶽 八十八里
延壽山長命寺（えんじゆさんちやうめいじ） 百里

▲此すゑのりつうそくもしといんきよ山のらくじまでゆうちよりとよくられど千里も万里もゆくべし
めでたし〳〵〳〵〳〵〳〵

けふのみはかうもあらうろ
手の奴足の奴り ひざ栗毛（くりげ）
行列（ぎやうれつ）そろへて老（おい）を
まつべし

醒世老人 京傳戯作



けさしやうかうち のまおもけくえく ぬよくらんとおもはい ころしかゆふつらん よらしよきこうまれ あしてぐちらんれ そうのゝるうて ゆつござらふ をれんきらんを つ中ものもよ あてきえまれ くさうんうゑ づてす婦へさめ しる物へそり ゆ家壱書より うらかわやれ

読書丸（どくしよぐわん）

一包十五粒入代壱匁五分
〇第一きこんをつよくしものおぼへをよくし〇心腎（しんじん）乃きをよくぶんにようし
〇きのふさぎうつ〳〵をひらくよし
〇精力をましもちたる人へ老若男女によろしく身におぼへてをしあり〇旅中をちらぬはうちんの人へつけていちかうすゞし
〇きうつきのあひだはやくつきえかくいつのふりもん一ツゝりみてそくこうありくすしくらのうきにたる
▲此薬をとりあへ春よりひろめ以前々にふかひろまりてそうらふ此ほんどのはうさもあかくかやくもと遠方のはうさのかたへくすりあらたもしやかは

賣弘所
江戸
京傳店